令和７年度北九州市高齢者等実態調査
報告書

令和８年３月

北九州市保健福祉局

目　次

第１章　調査の概要・・1

第２章　調査対象の基本属性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
1.　基本事項・・・3
2.　介護の要因・・5
3.　同居人・・6
4.　住居・・・7

第３章　共通設問の調査結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
1.　健康・医療・・・8
2.　介護予防・・16
3.　生きがい・社会参加・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
4.　就労・・24
5.　医療や福祉、介護などの情報収集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
6.　デジタル活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
7.　地域との関わり・支援の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
8.　終活・・36
9.　認知症・・・40
10.　虐待・権利擁護・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
11.　地域包括支援センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
12.　介護保険制度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
13.　保健・福祉サービスの利用意向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
14.　介護保険の負担に対する考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
15.　生活環境・・62
16.　暮らし向き・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
17.　高齢者・・・66
18.　高齢者福祉施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
19.　子育てと介護(ダブルケア)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70

第４章　在宅高齢者の介護者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
1.　主な介護者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
2.　介護の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・79
3.　高齢者の虐待・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・85

第５章　施設入居者の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
1.　入所前の家族状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
2.　施設サービスの利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・87
3.　施設での生活全体の印象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91

【参考】
調査票・・93

第１章　調査の概要

１.調査の目的

北九州市に在住する高齢者等の保健福祉に関するニーズ、意識及び実態を把握することで今後の高齢社会対策を進めるうえでの基礎資料を得ること目的に実施した。

２.調査対象者

（１）一般高齢者　＊『一般高齢者』『一般』と表記

令和 7 年 10 月 1 日現在、北九州市在住の高齢者(65 歳以上)の中から無作為に抽出した 3,000 人
*ただし、要支援・要介護認定を受けている方を除く

（２）在宅高齢者　＊『在宅高齢者』『在宅』と表記

令和 7 年 10 月 1 日現在、北九州市在住で、介護保険の要支援・要介護の認定を受けている在宅高齢者(65 歳以上)の中から、無作為に抽出した 3,600 人

（３）施設入所高齢者　＊『施設入所者』『施設』と表記

令和 7 年 10 月 1 日現在、北九州市内の介護保険施設に入所する施設入所者の中から無作為に抽出した 600 人

（４）若年者　＊『若年者』『若年』と表記

令和 7 年 10 月 29 日現在、北九州市在住の 40 歳～64 歳の市民から無作為に抽出した 3,000 人

３.調査方法

郵送による配布回収

※若年者は、郵送またはインターネットによる回答

４.調査実施期間

令和 7 年 12 月 1 日～令和 7 年 12 月 31 日

５．回収状況

（１）一般高齢者	：配布票数 3,000	有効回収票数 1,800	有効回収率 60.0%
（２）在宅高齢者	：配布票数 3,600	有効回収票数 1,507	有効回収率 41.8%
（３）施設入所高齢者	：配布票数 600	有効回収票数 279	有効回収率 46.5%
（４）若年者	：配布票数 3,000	有効回収票数 1,265	有効回収率 42.1%

６.調査・集計・分析機関

【調査主体】北九州市保健福祉局長寿社会対策課

【集計分析】株式会社プラスアドグループ

７.集計分析上の注意事項

・図表においては、回答者の数を「Ｎ」で表記した。

・比率は小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合がある。

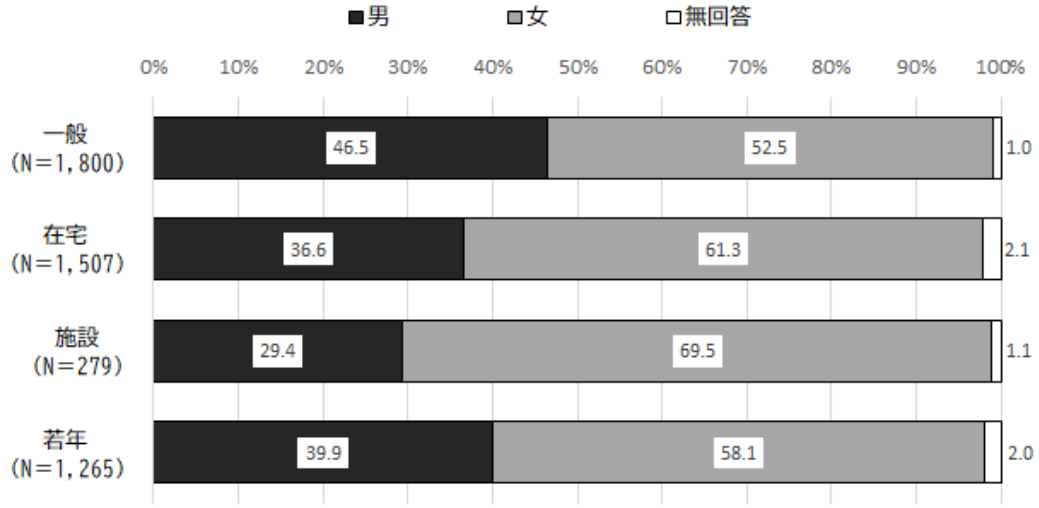
・複数回答の設問については、合計が 100%を超える場合がある。

第２章　調査対象の基本属性

1.　基本事項

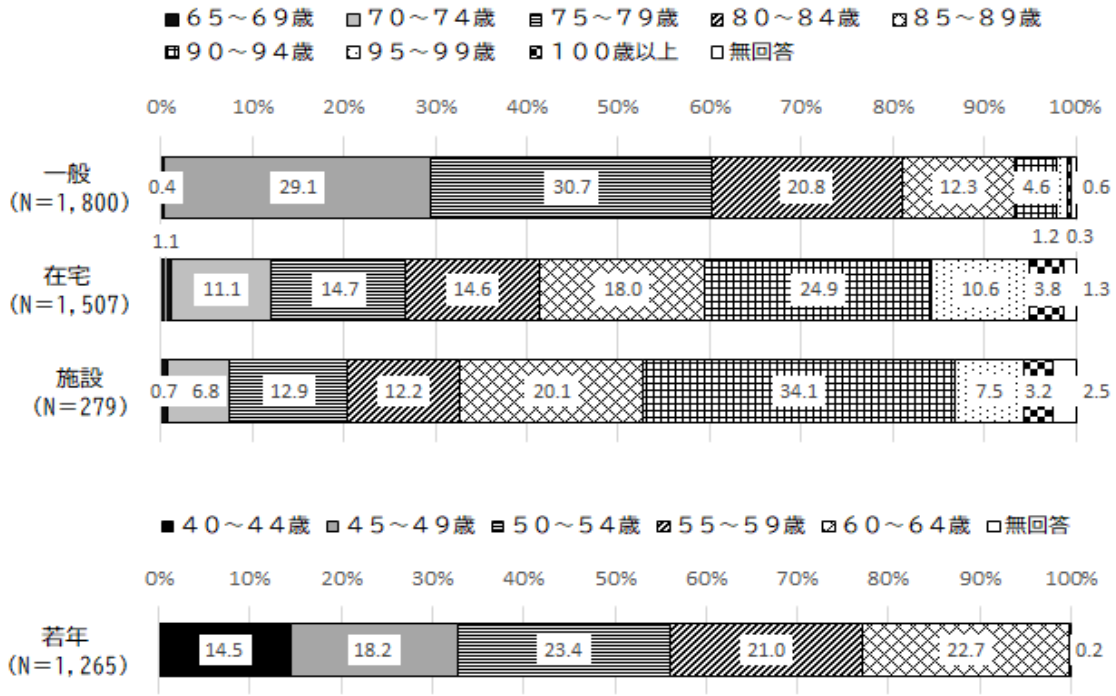
（１）性別

回答者の性別をみると、いずれの調査でも女性が多く、施設入所者では 69.5%が女性となっている。

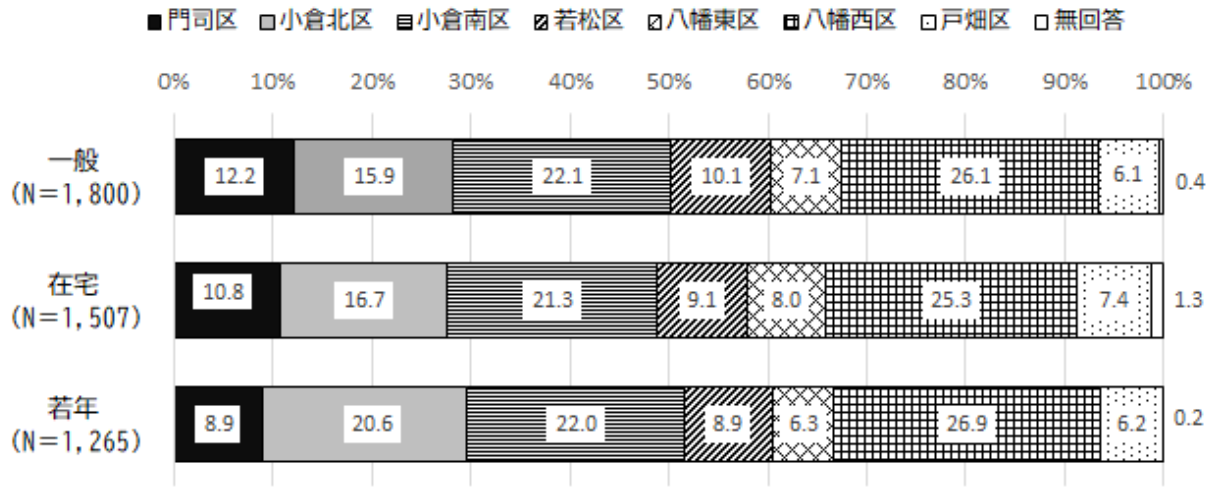


（２）年齢

回答者の年齢をみると、一般高齢者では、75～79 歳の割合が 30.7%、在宅高齢者では、90～94 歳が 24.9%、施設入所者では、90～94 歳が 34.1%と最も多くなっている。若年者では、50～54 歳が 23.4%と最も多くなっている。



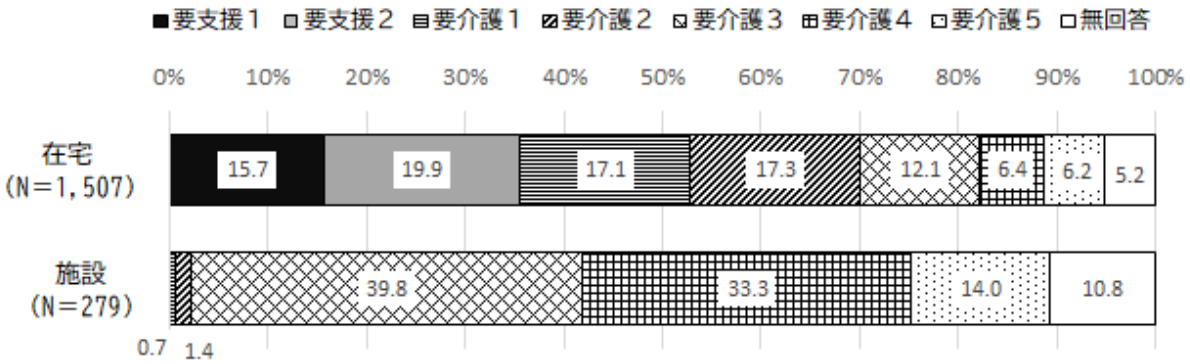
（３）住所区



（４）要介護度

要介護度についてみると、在宅高齢者では「要支援２」が 19.9%と最も多く、次いで「要介護２」が 17.3%、「要介護１」が 17.1%、「要支援１」が 15.7%となっている。

施設入所者では「要介護３」が 39.8%と最も多く、次いで「要介護４」が 33.3%、「要介護５」が 14.0%となっている。



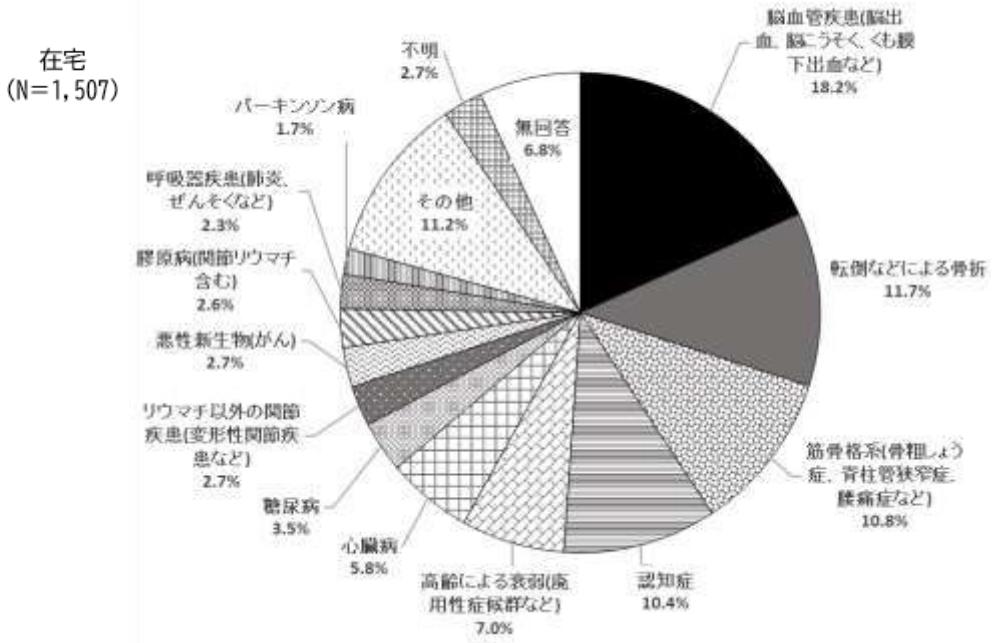
*要介護度

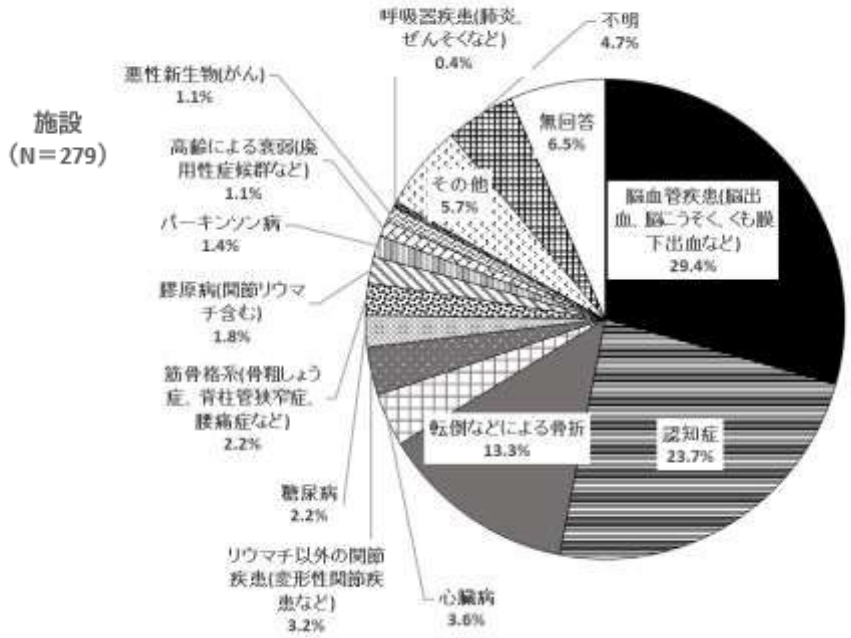
区分	身体の状態
要支援１	社会的支援を部分的に必要とする状態
要支援２	社会的支援を必要とする状態
要介護１	心身の状態が安定していないか、認知症などにより部分的な介護を必要とする状態
要介護２	軽度の介護を必要とする状態
要介護３	中度の介護を必要とする状態
要介護４	重度の介護を必要とする状態
要介護５	最重度の介護を必要とする状態

2． 介護が必要になった要因

対象：『在宅高齢者』『施設入所者』

介護が必要になった主な原因については、「脳血管疾患(脳出血、脳こうそく、くも膜下出血など)」が最も多く、在宅高齢者では 18.2%、施設入所者では 29.4%となっている。次いで、在宅高齢者では「転倒などによる骨折」が 11.7%、施設入所者では「認知症」が 23.7%となっている。





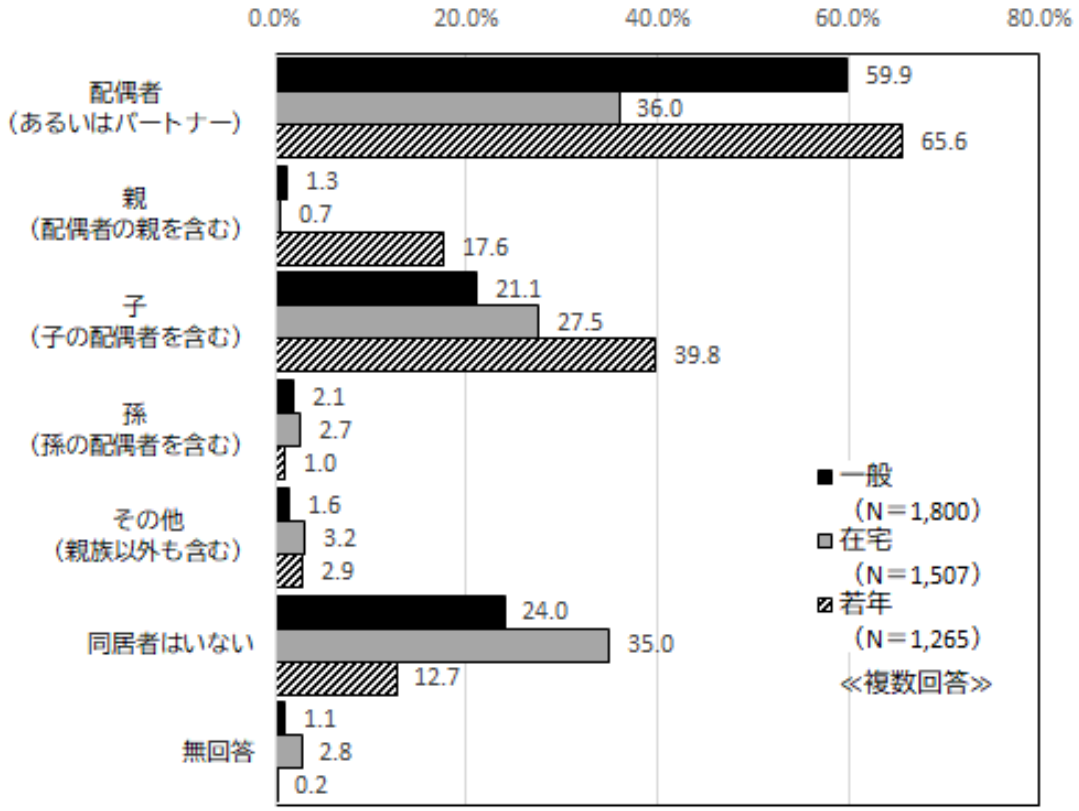
３． 同居人

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

同居人については、一般高齢者では、「配偶者（あるいはパートナー）」が 59.9%と最も多く、次いで「同居者はいない」が 24.0%、「子（子の配偶者を含む）」が 21.1%となっている。

在宅高齢者では、「配偶者（あるいはパートナー）」が 36.0%と最も多く、次いで「同居者はいない」が 35.0%、「子（子の配偶者を含む）」が 27.5%となっている。

若年者は、「配偶者（あるいはパートナー）」が 65.6%と最も多く、次いで「子（子の配偶者を含む）」が 39.8%、「親（配偶者の親を含む）」が 17.6%となっている。



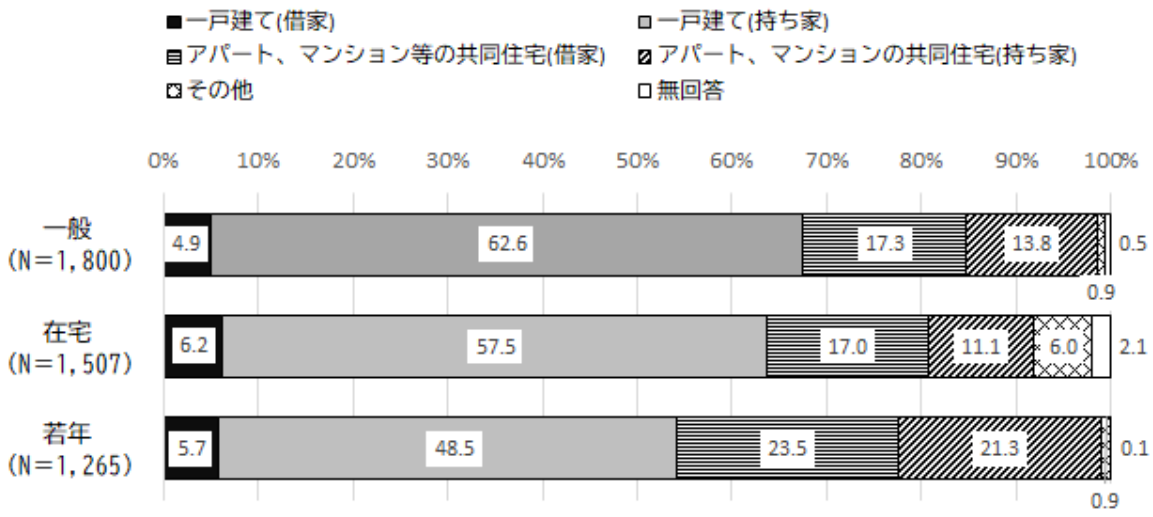
４． 住居

（１）住居の形態

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

一般高齢者では『持ち家』(「一戸建て(持ち家)」と「アパート、マンションの共同住宅(持ち家)」の合計)は 76.4%、『借家』(「一戸建て(借家)」と「アパート、マンションの共同住宅(借家)」の合計)は 22.2%となっている。

在宅高齢者では『持ち家』は 68.6%、『借家』は 23.2%、若年者では『持ち家』は 69.8%、『借家』は 29.2%となっている。



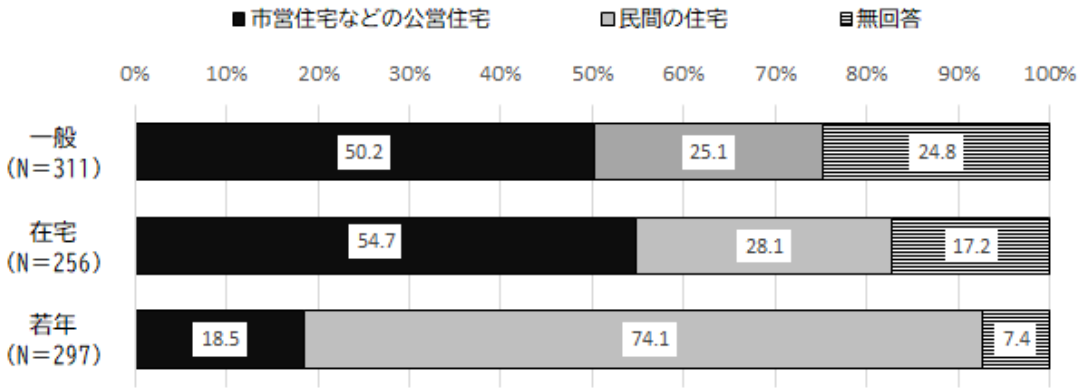
（１）－１　共同住宅(借家)の種類

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

「アパート、マンションの共同住宅(借家)に住んでいる」と回答した人に対し、公営住宅か民間の住宅か尋ねたところ、一般高齢者では「市営住宅などの公営住宅」が 50.2%、「民間の住宅」が 25.1%となっている。

在宅高齢者では「市営住宅などの公営住宅」が 54.7%、「民間の住宅」が 28.1%となっている。

若年者では「市営住宅などの公営住宅」が 18.5%、「民間の住宅」が 74.1%となっている。



第３章　共通設問の調査結果

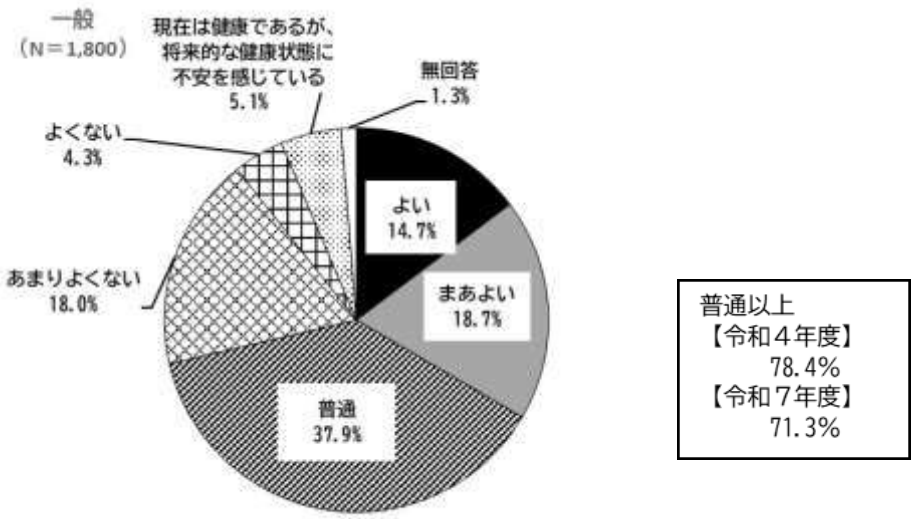
1.　健康・医療

（１）健康状態

対象：『一般高齢者』

一般高齢者の健康状態については、「普通」が 37.9%と最も多く、次いで「まあよい」が 18.7%、「あまりよくない」が 18.0%となっている。

普通以上（「よい」、「まあよい」、「普通」の合計)は 71.3%となっている。

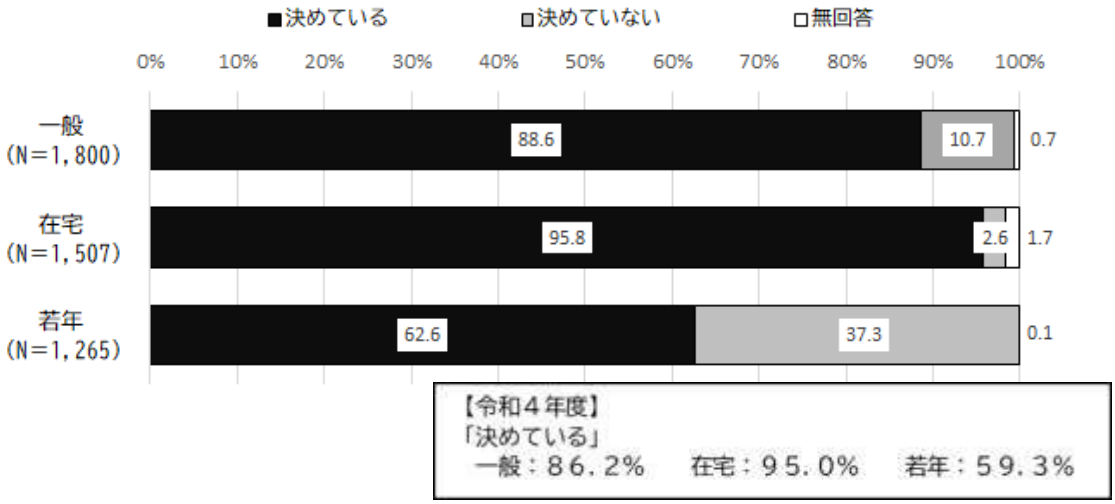


（２）かかりつけ医

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

かかりつけ医を「決めている」人の割合は、一般高齢者で 88.6%、在宅高齢者で 95.8%といずれも 8 割を超えている。

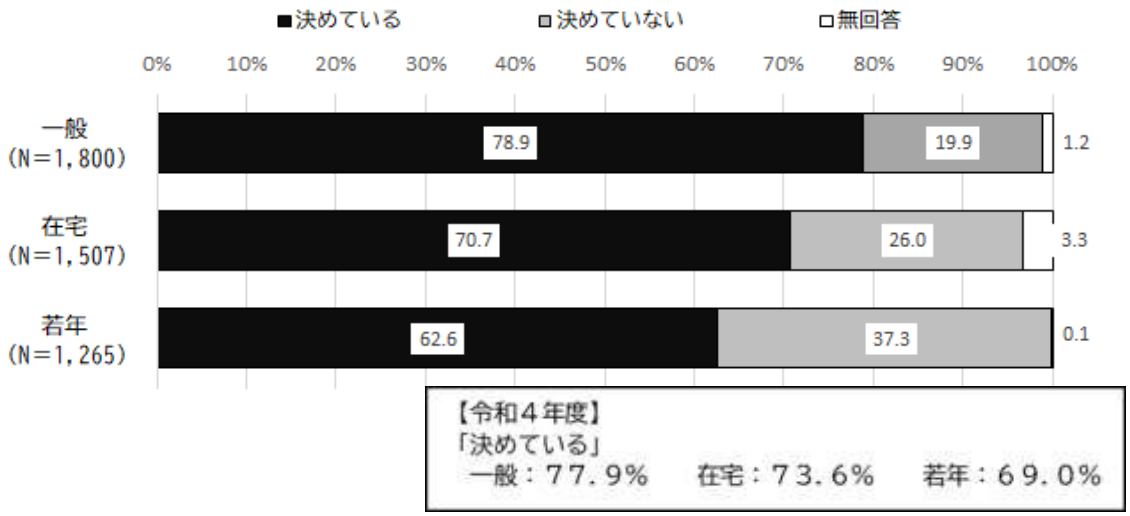
一方、若年者では、「決めている」が 62.6%、「決めていない」が 37.3%となっている。



（３）かかりつけ歯科医

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

かかりつけ歯科医を「決めている」人は、一般高齢者で 78.9%、在宅高齢者で 70.7%、若年者で 62.6%となっている。

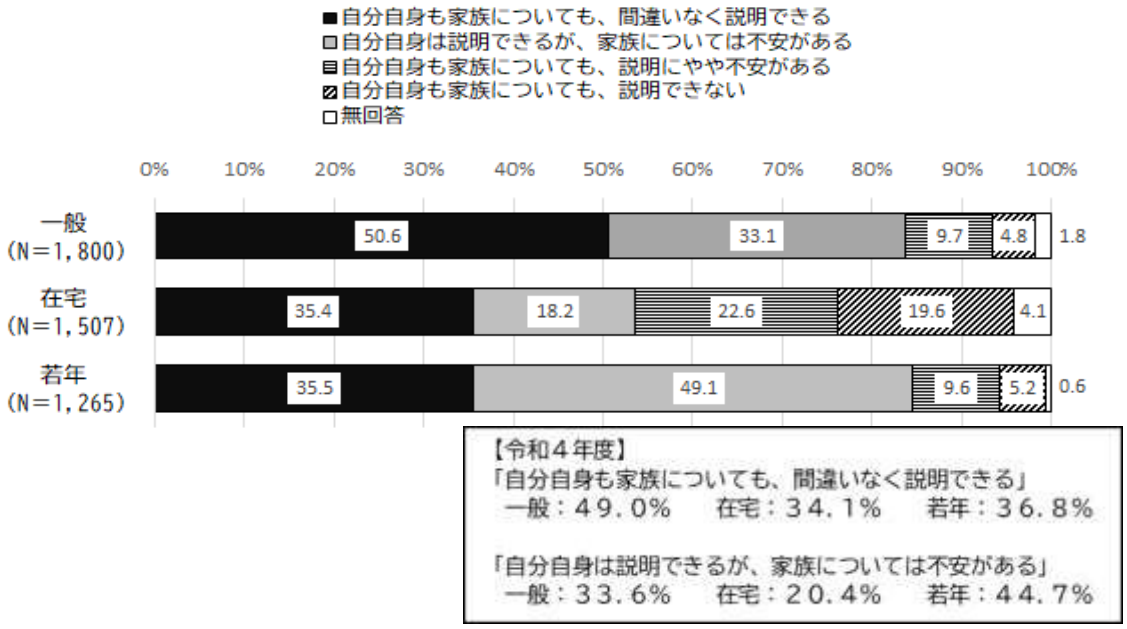


（４）自身や家族の「病気の名前」、「薬の情報」、「医療・介護情報」を説明できるか

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

救急搬送の際や入院した際、新しく病院にかかった際に「病気の名前」、「薬の情報」、「医療・介護情報」を説明できるかについて、一般高齢者、在宅高齢者では「自分自身も家族についても、間違いなく説明できる」が最も多く、一般高齢者で 50.6%、在宅高齢者で 35.4%となっている。

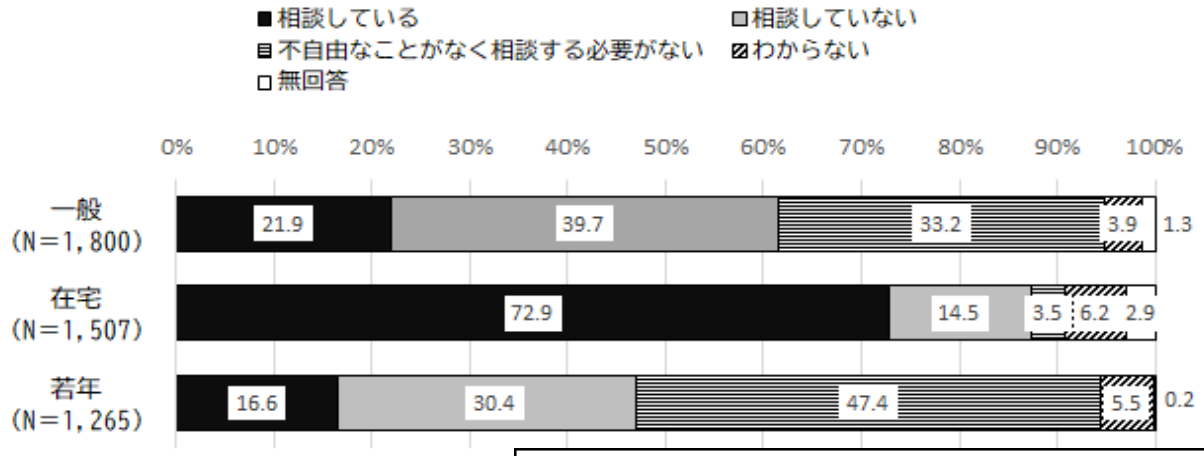
若年者では「自分自身は説明できるが、家族については不安がある」が最も多く、49.1%となっている。



（５）日常生活に不自由さが生じた場合、医療・介護関係者に相談しているか

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

心身の機能低下により、日常生活に不自由さが生じた場合、リハビリテーションについて医療・介護関係者に相談しているか尋ねたところ、一般高齢者では「相談していない」が 39.7%、在宅高齢者では「相談している」が 72.9%、若年者では「不自由なことがなく相談する必要がない」が 47.4%と最も多くなっている。



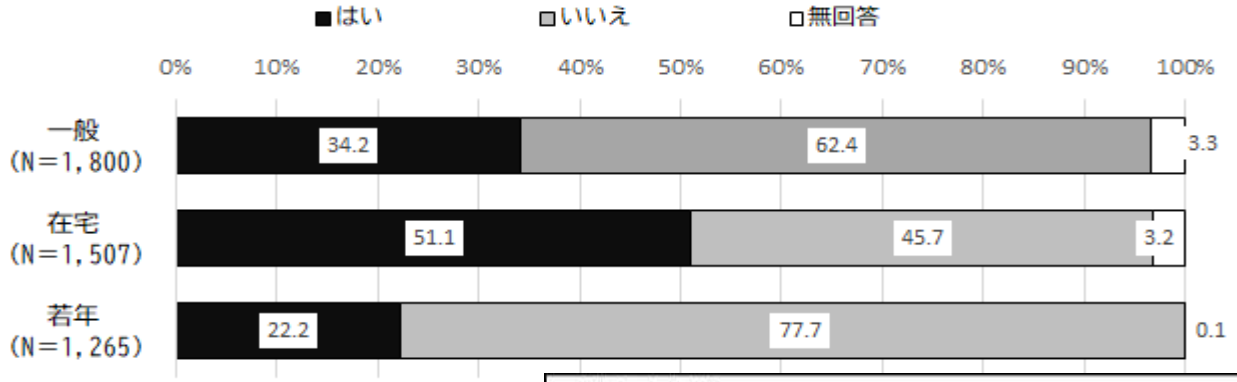
【令和４年度】
「相談している」
一般：２０．９％　在宅：７２．３％　若年：１７．９％

「相談していない」
一般：３８．８％　在宅：１４．６％　若年：３２．２％

（６）日頃から信頼できる人と人生会議（ＡＣＰ:アドバンス･ケア･プランニング）をしているか

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

日頃から信頼できる人と人生会議（ＡＣＰ）をしている人は、一般高齢者で 34.2%、在宅高齢者で 51.1%、若年者で 22.2%となっている。



【令和４年度】
「はい」
一般：３２．８％　在宅：５０．２％　若年：２２．９％

「いいえ」
一般：６３．４％　在宅：４６．７％　若年：７６．５％

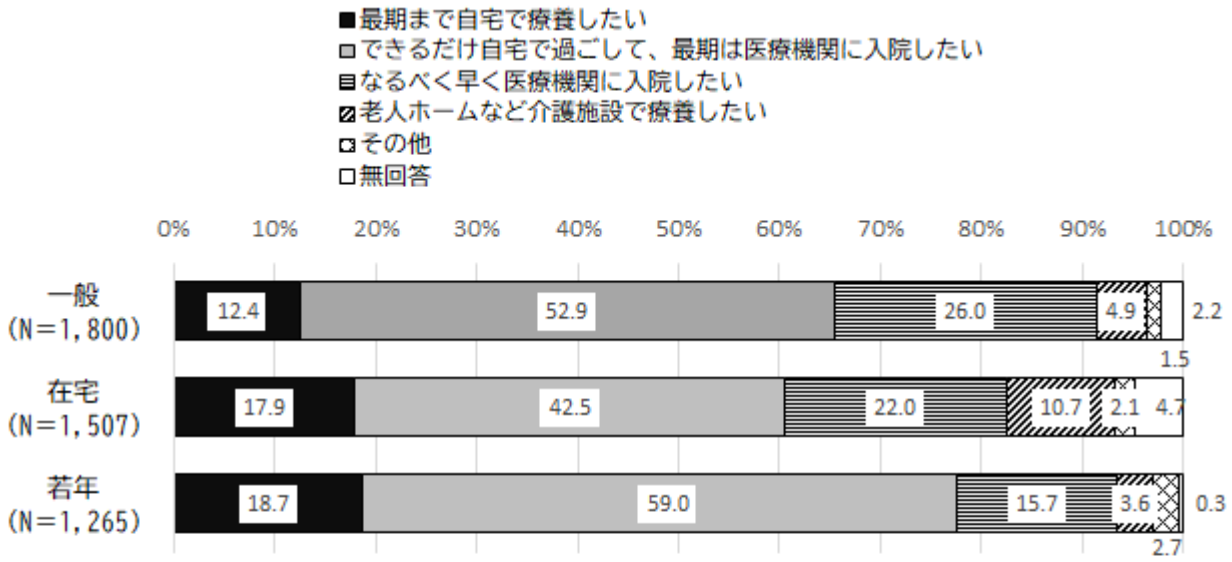
☆人生会議（ＡＣＰ：アドバンス・ケア・プランニング）とは☆
　もしものときのために、あなたが望む医療やケアについて、前もって考え、繰り返し話し合い、共有する取組。

（７）余命 6 ヶ月と告げられた場合の治療

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

余命 6 ヶ月と告げられた場合の治療のあり方について、一般高齢者、在宅高齢者、若年者のいずれも「できるだけ自宅で過ごして、最期は医療機関に入院したい」が最も多く、一般高齢者で 52.9%、在宅高齢者で 42.5%、若年者で 59.0%となっている。

次いで多い回答は、一般高齢者、在宅高齢者では「なるべく早く医療機関に入院したい」、若年者では「最期まで自宅で療養したい」であった。



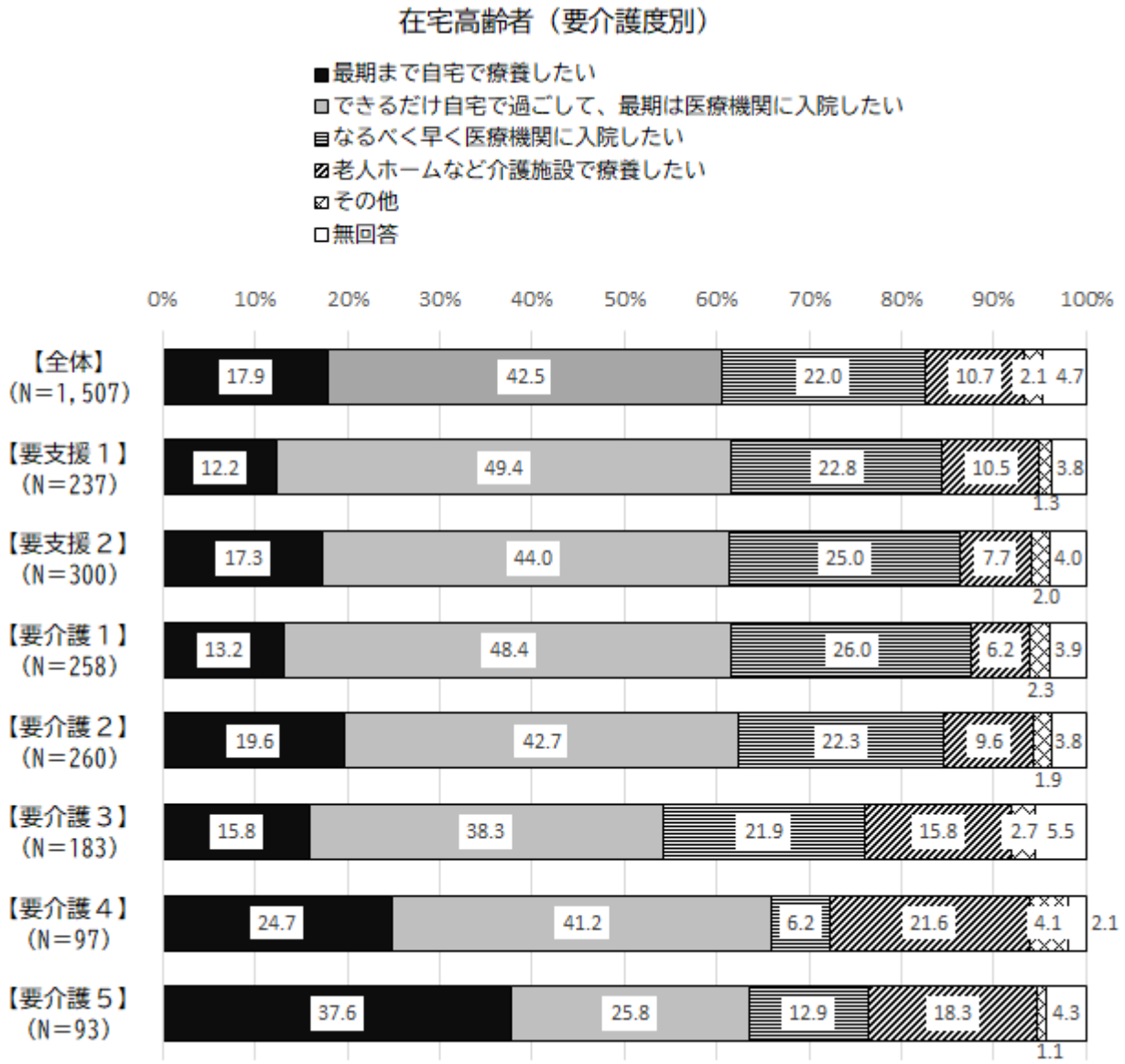
【令和４年度】
「最期まで自宅で療養したい」
　一般：１１．８％　　在宅：１３．２％　　若年：１９．９％

「できるだけ自宅で過ごして、最期は医療機関に入院したい」
　一般：５２．０％　　在宅：４３．８％　　若年：５８．６％

「なるべく早く医療機関に入院したい」
　一般：２８．３％　　在宅：２５．０％　　若年：１５．５％

【属性別特徴】

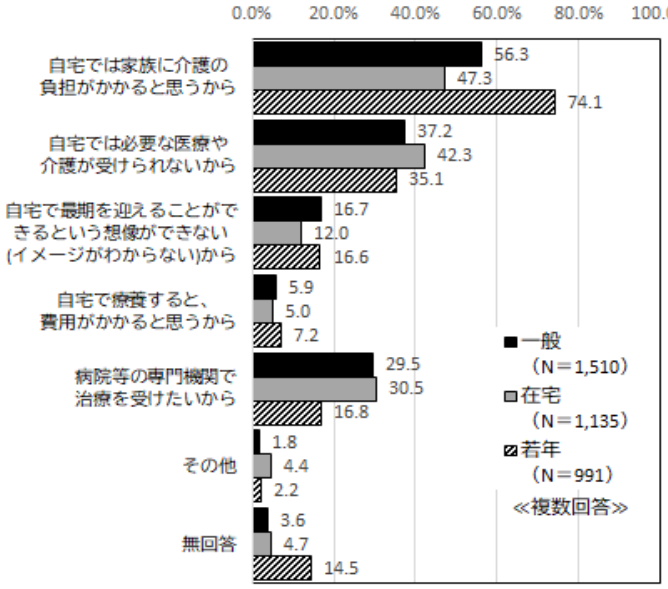
在宅高齢者について要介護度別にみると、要介護５を除き「できるだけ自宅で過ごして、最期は医療機関に入院したい」が最も多くなっている。要介護５では「最期まで自宅で療養したい」が最も多くなっている。



（７）－１　自宅以外の選択理由

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

「自宅以外」と回答した人に対し、その理由を尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者、若年者のいずれも「自宅では家族に介護の負担がかかると思うから」が最も多く、次いで「自宅では必要な医療や介護が受けられないから」、「病院等の専門機関で治療を受けたいから」の順となっている。



【令和４年度】
「自宅では家族に介護の負担がかかると思うから」
一般：５６．５％　在宅：４５．６％　若年：７５．２％

「自宅では必要な医療や介護が受けられないから」
一般：３９．６％　在宅：４４．８％　若年：３８．１％

【属性別特徴】

在宅高齢者について要介護度別にみると、要支援１・２、要介護１・２・４では「自宅では家族に介護の負担がかかると思うから」が最も多く、要介護３・５では「自宅では必要な医療や介護が受けられないから」が最も多くなっている。

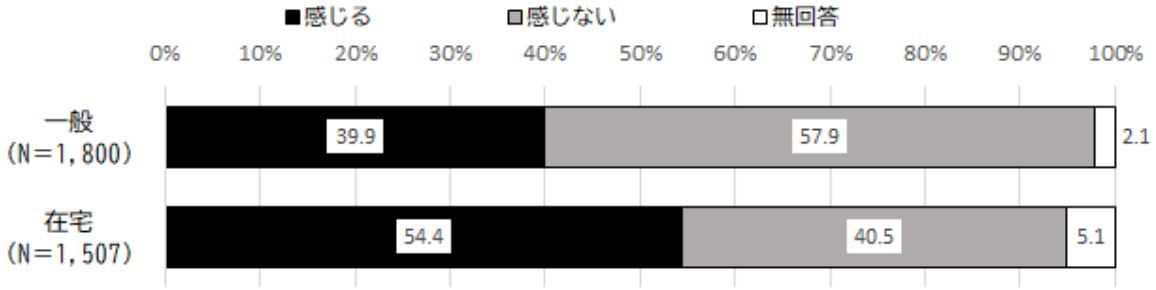
在宅高齢者（要介護度別）

		合計	自宅では家族に介護の負担がかかると思うから	自宅では必要な医療や介護が受けられないから	自宅で最期を迎えることができるという想像ができないから	自宅で療養すると、費用がかかると思うから	病院等の専門機関で治療を受けたいから	その他	無回答
全体		1,135	47.3%	42.3%	12.0%	5.0%	30.5%	4.4%	4.7%
要介護度別	要支援１	196	49.0%	36.2%	15.8%	5.6%	30.1%	4.6%	5.6%
	要支援２	230	44.8%	36.5%	13.9%	7.0%	31.3%	4.8%	7.4%
	要介護１	208	45.2%	42.8%	8.7%	4.3%	33.7%	4.3%	3.8%
	要介護２	194	46.9%	45.4%	9.8%	4.1%	29.4%	3.1%	4.6%
	要介護３	139	46.0%	53.2%	12.2%	4.3%	33.1%	3.6%	2.9%
	要介護４	67	64.2%	49.3%	10.4%	3.0%	17.9%	4.5%	1.5%
	要介護５	53	47.2%	52.8%	13.2%	5.7%	24.5%	5.7%	3.8%

（８）聞こえづらさ

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

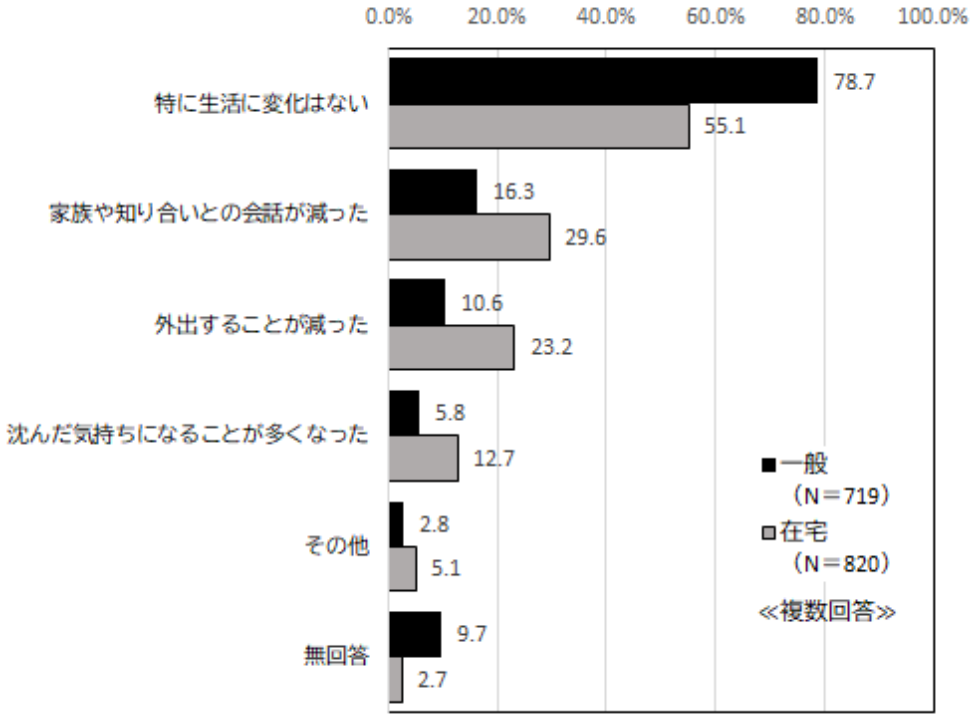
日常生活において、会話やテレビの音が聞こえづらいと感じるかと尋ねたところ、「感じる」の割合は一般高齢者で 39.9%、在宅高齢者で 54.4%となっている。



（８）－１　聞こえづらさによる生活の変化

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

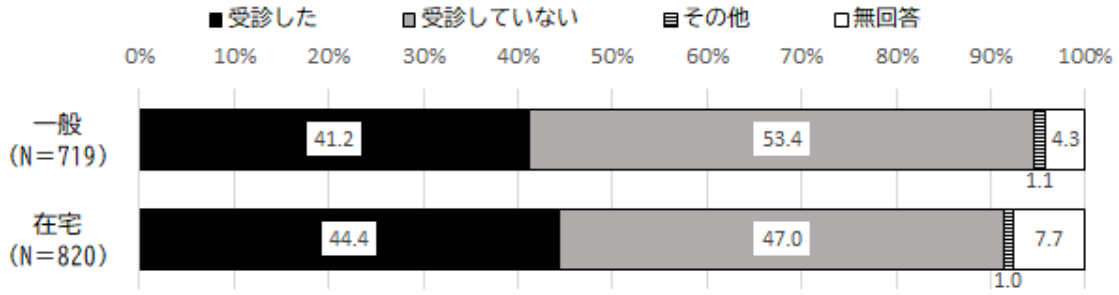
「会話やテレビの音が聞こえづらいと感じる」と回答した人に対し、生活の変化があったか尋ねたところ、「特に生活に変化はない」が最も多く、一般高齢者で 78.7%、在宅高齢者で 55.1%となっている。次いで「家族や知り合いとの会話が減った」が一般高齢者で 16.3%、在宅高齢者で 29.6%「外出することが減った」が一般高齢者で 10.6%、在宅高齢者で 23.2%となっている。



（８）－２　病院(耳鼻咽喉科など)受診の有無

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

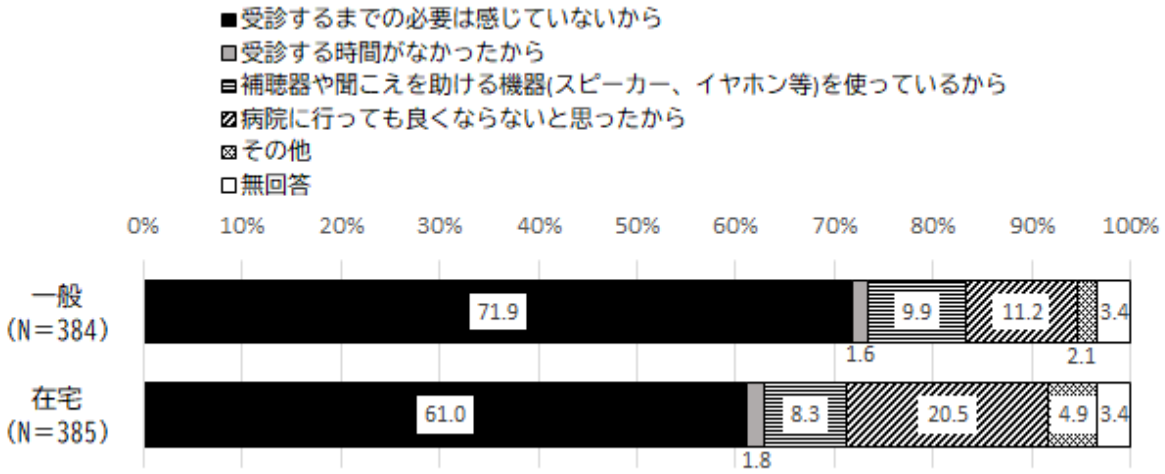
「会話やテレビの音が聞こえづらいと感じる」と回答した人に対し、病院(耳鼻咽喉科など)を受診したことがあるか尋ねたところ、「受診した」の割合は一般高齢者で 41.2%、在宅高齢者で 44.4%となっている。



（８）－３　病院(耳鼻咽喉科など)を受診しない理由

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

「病院(耳鼻咽喉科など)を受診していない」と回答した人に対し、理由を尋ねたところ、「受診するまでの必要は感じていないから」が最も多く、一般高齢者で 71.9%、在宅高齢者で 61.0%といずれも過半数を超えている。次いで「病院に行っても良くならないと思ったから」が一般高齢者で 11.2%、在宅高齢者で 20.5%となっている。

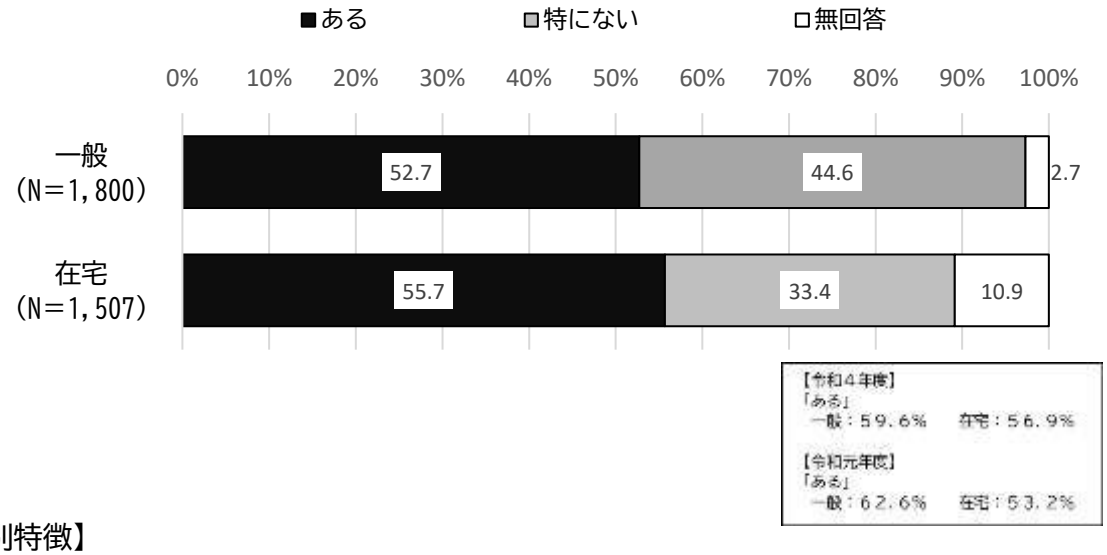


2．　介護予防

（1）介護予防（フレイル予防）の取り組み状況

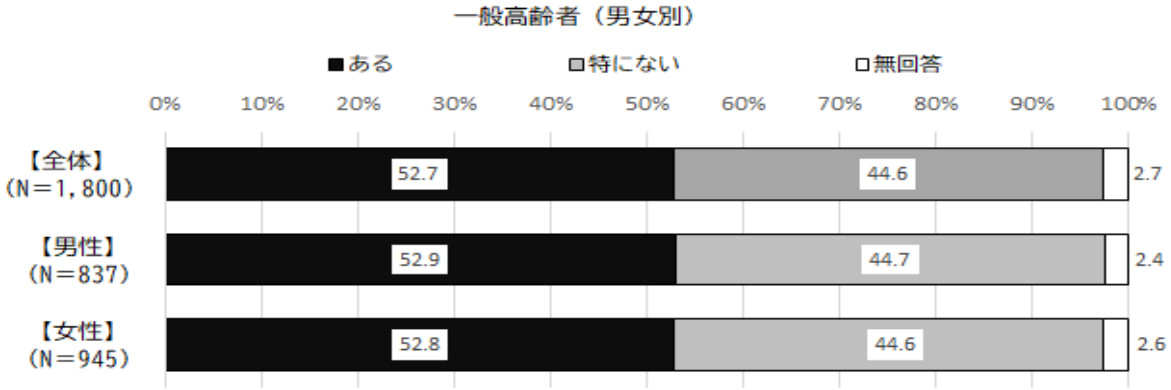
対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

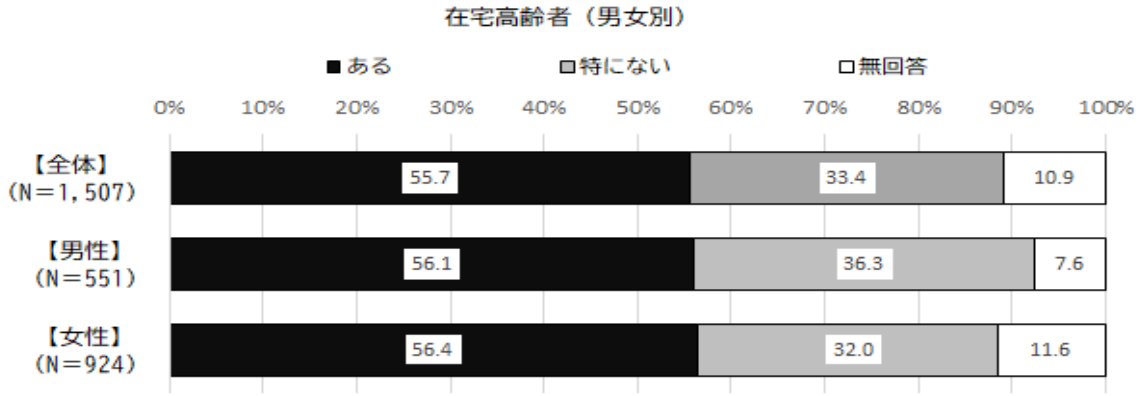
健康づくりや介護予防（フレイル予防）のために、日ごろから取り組んでいることがあるかどうか尋ねたところ、「ある」の割合は一般高齢者で 52.7%、在宅高齢者で 55.7%となっている。



【属性別特徴】

男女別にみると、いずれも「ある」の割合が 50%を超えている。





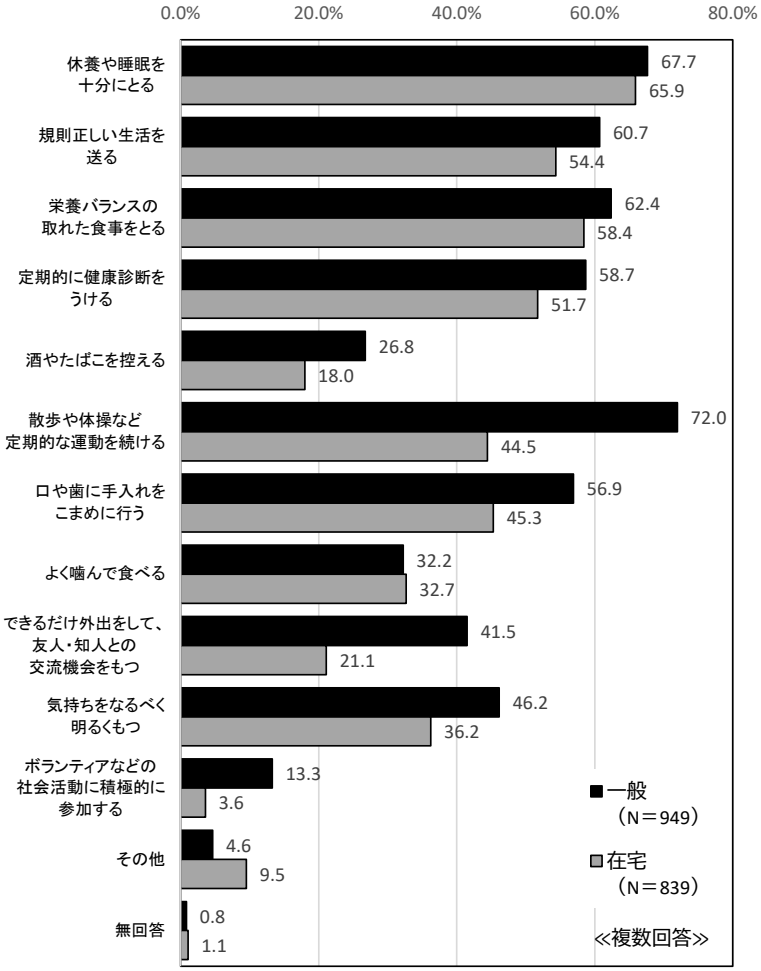
（１）－１　介護予防（フレイル予防）の取り組み内容

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

介護予防（フレイル予防）に日ごろから取り組んでいることが「ある」と回答した人に対し、その内容を尋ねたところ、一般高齢者では「散歩や体操など定期的な運動を続ける」が 72.0%と最も多く、次いで「休養や睡眠を十分にとる」が 67.7%、「栄養バランスのとれた食事をとる」が 62.4%となっている。

在宅高齢者では「休養や睡眠を十分にとる」が 65.9%と最も多く、次いで「栄養バランスのとれた食事をとる」が 58.4%、「規則正しい生活を送る」が 54.4%となっている。

	一般高齢者	在宅高齢者
1位	散歩や体操など定期的な運動を続ける（72.0%）	休養や睡眠を十分にとる（65.9%）
2位	休養や睡眠を十分にとる（67.7%）	栄養バランスのとれた食事をとる（58.4%）
3位	栄養バランスのとれた食事をとる（62.4%）	規則正しい生活を送る（54.4%）



【令和４年度】
一般：７１．０％「散歩や体操など定期的な運動を続ける」
　　７０．６％「休養や睡眠を十分にとる」
　　６５．４％「栄養バランスの取れた食事をとる」

在宅：６８．４％「休養や睡眠を十分にとる」
　　６１．１％「規則正しい生活を送る」
　　６１．０％「栄養バランスの取れた食事をとる」

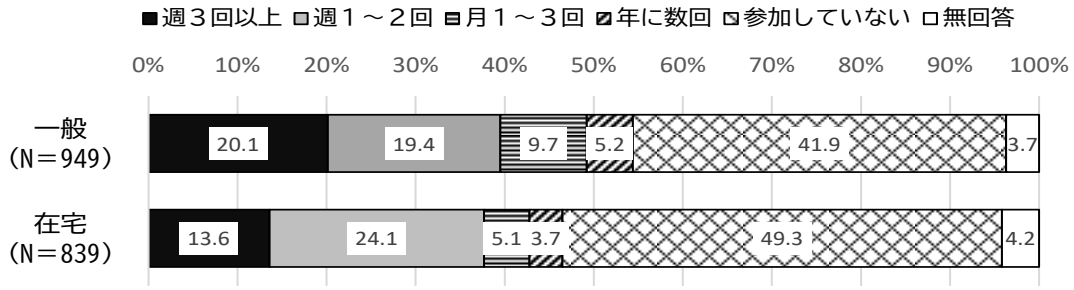
【令和元年度】
一般：６８．９％「散歩や体操など定期的な運動を続ける」
　　６７．３％「栄養バランスの取れた食事をとる」
　　６４．６％「休養や睡眠を十分にとる」

在宅：６２．１％「休養や睡眠を十分にとる」
　　６０．５％「栄養バランスの取れた食事をとる」
　　５４．０％「規則正しい生活を送る」

（１）－２　「通いの場」への参加頻度

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

介護予防（フレイル予防）に日ごろから取り組んでいることが「ある」と回答した人に対し、「通いの場」への参加頻度を尋ねたところ、「週 3 回以上」は、一般高齢者で 20.1%、在宅高齢者で 13.6%、「週 1～2 回」は一般高齢者で 19.4%、在宅高齢者で 24.1%となっている。



『月1回以上』（「週３回以上」＋「週１～２回」＋「月１～３回」の合計）

【令和元年度】
一般：５７.７%　在宅：５３.０%

【令和４年度】
一般：５０.３%　在宅：４５.５%

【令和７年度】
一般：４９.２%　在宅：４２.８%

『年に数回』

【令和元年度】
一般：２０.９%　在宅：１８.５%

【令和４年度】
一般：5.３%　在宅：5.１%

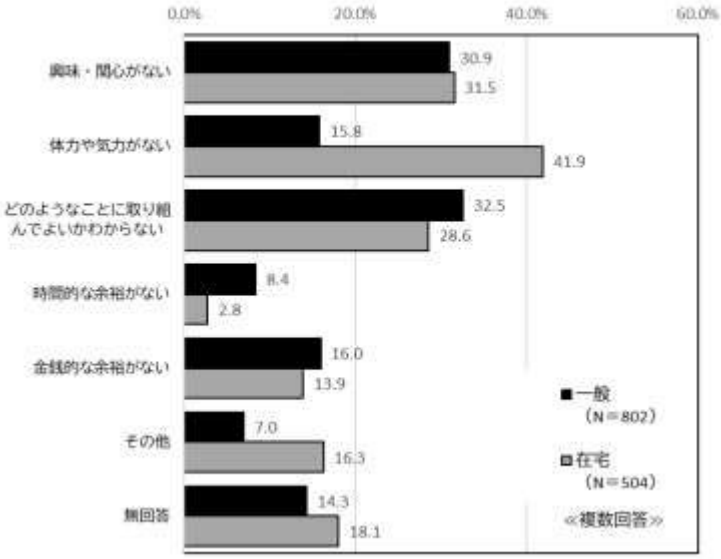
【令和７年度】
一般：5.２%　在宅：3.７%

（１）－３　介護予防（フレイル予防）に取り組まない理由

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

介護予防（フレイル予防）を日ごろから取り組んでいることが「特にない」と回答した人に理由を尋ねたところ、一般高齢者では「どのようなことに取り組んでよいかわからない」が 32.5%と最も多く、次いで「興味・関心がない」が 30.9%となっている。

在宅高齢者では「体力や気力がない」が 41.9%と最も多く、次いで「興味・関心がない」が 31.5%となっている。



【令和４年度】
一般：４０.０%「どのようなことに取り組んでよいかわからない」
　　２４.７%「興味・関心がない」
在宅：４３.５%「体力や気力がない」
　　３３.９%「どのようなことに取り組んでよいかわからない」

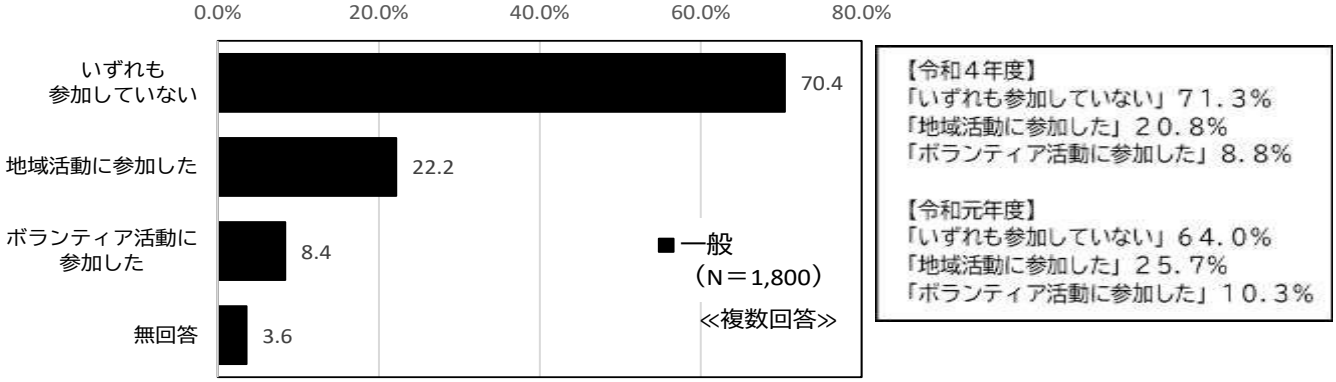
【令和元年度】
一般：３２.５%「どのようなことに取り組んでよいかわからない」
　　２５.４%「金銭的な余裕がない」
在宅：５１.８%「体力や気力がない」
　　２６.９%「どのようなことに取り組んでよいかわからない」

３． 生きがい・社会参加

（１）地域活動の状況

対象：『一般高齢者』

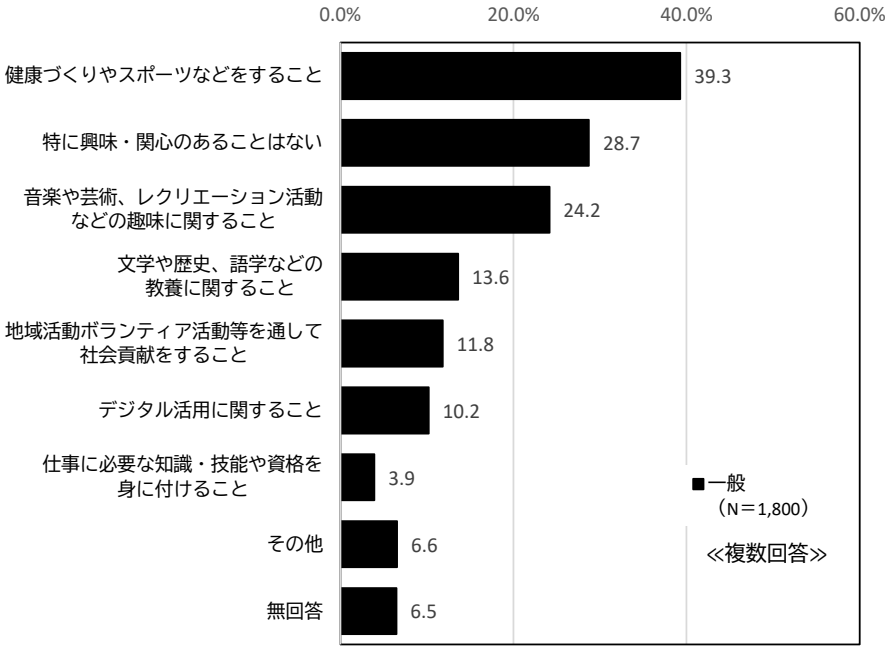
この 1 年間に、自治会やまちづくり協議会、老人クラブなどの地域活動に参加したかどうかを尋ねたところ、「いずれも参加していない」が 70.4%と最も多く、次いで「地域活動に参加した」が 22.2%、「ボランティア活動に参加した」が 8.4%となっている。



（２）興味・関心のあること、今後取り組んでみたいこと

対象：『一般高齢者』

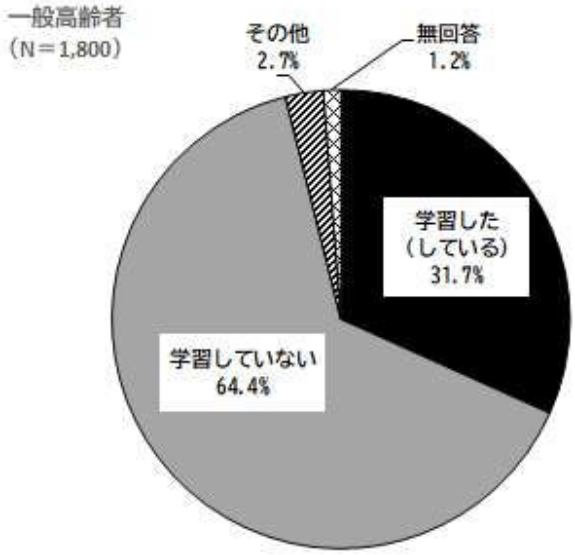
興味・関心があること、今後取り組みたいことについて尋ねたところ、一般高齢者では「健康づくりやスポーツなどをすること」が 39.3%と最も多く、次いで「特に興味・関心のあることはない」が 28.7%、「音楽や芸術、レクリエーション活動などの趣味に関すること」が 24.2%となっている。



（３）学習活動の有無

対象：『一般高齢者』

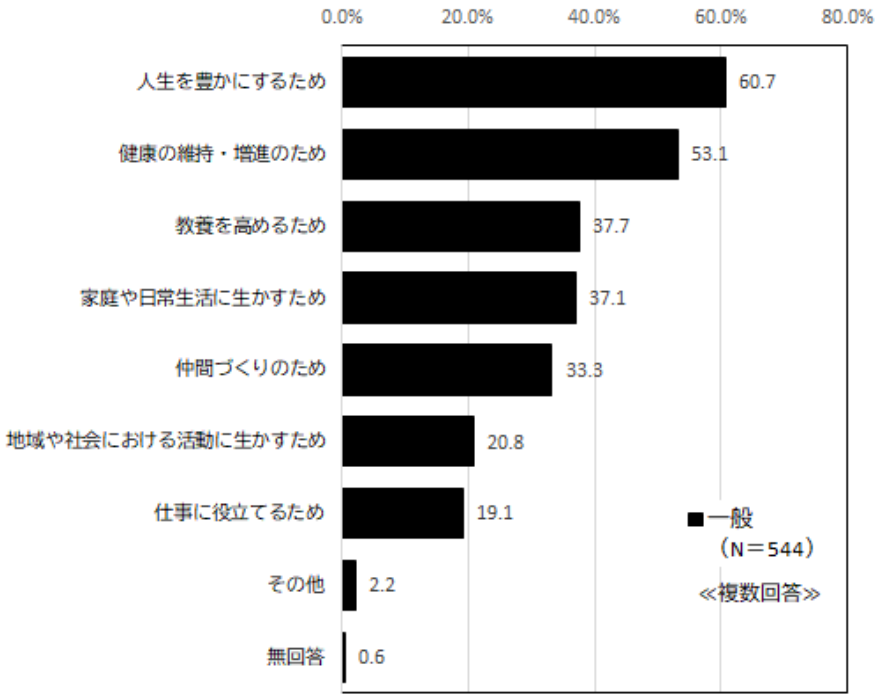
65歳を超えてから、何らかの学習活動を行ったか尋ねたところ、「学習した（している）」が31.7%、「学習していない」が64.4%となっている。



（３）－１　学習した理由

対象：『一般高齢者』

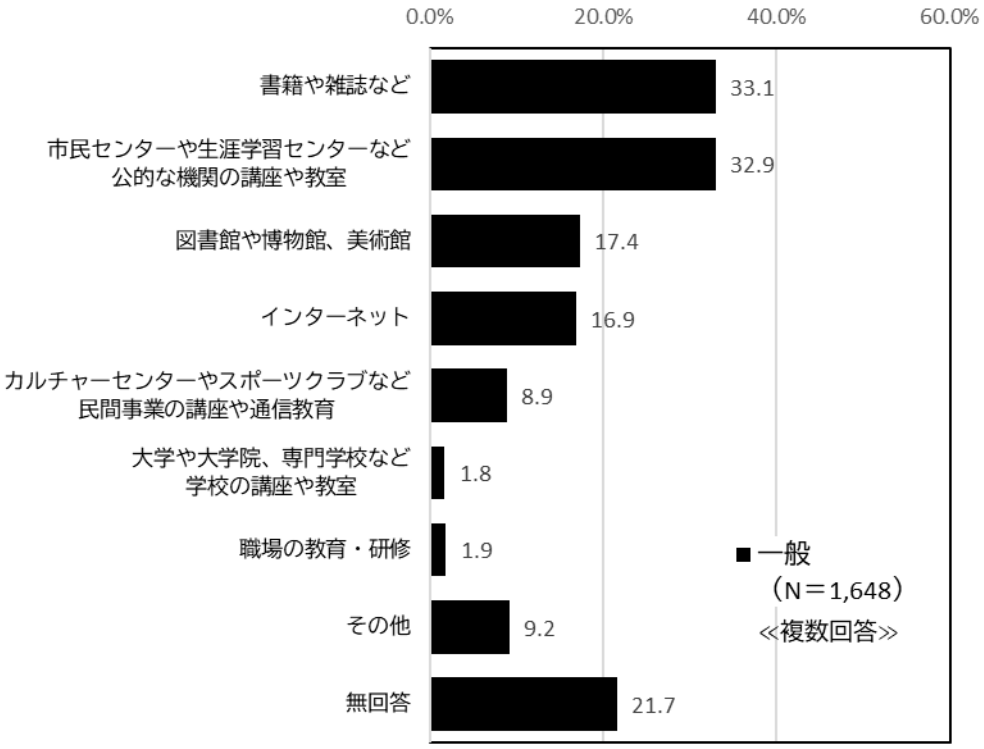
「65 歳を超えてから、何らかの学習活動を行っている」と回答した人に対し、学習する理由を尋ねたところ、「人生を豊かにするため」が 60.7%と最も多く、次いで「健康の維持・増進のため」が 53.1%、「教養を高めるため」が 37.7%となっている。



（３）－２　学習したい場所や形態

対象：『一般高齢者』

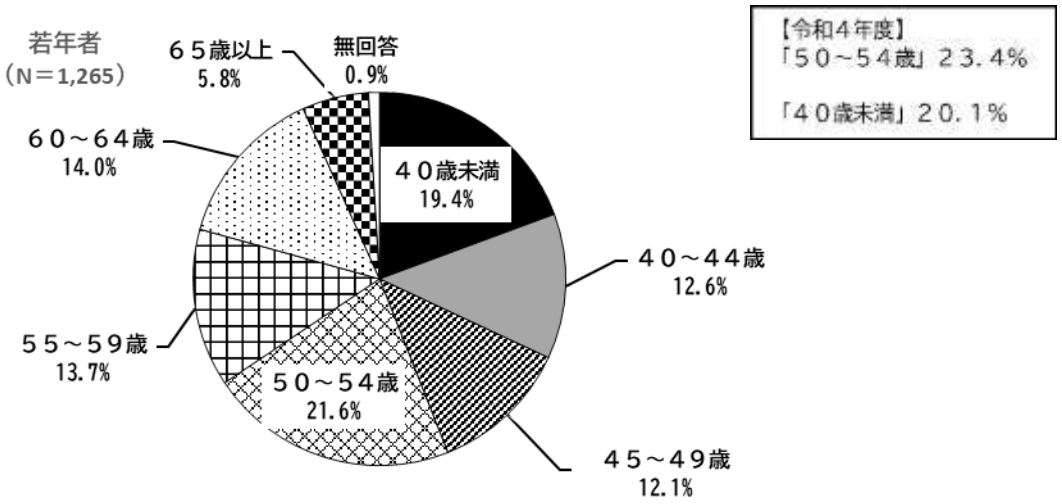
これから学習するとしたら、どのような場所や形態で学習したいか尋ねたところ、「書籍や雑誌など」が 33.1％で最も多く、次いで「市民センターや生涯学習センターなど公的な機関の講座や教室」が 32.9％、「図書館や博物館、美術館」が 17.4％となっている。



（４）老後に向けての準備開始時期

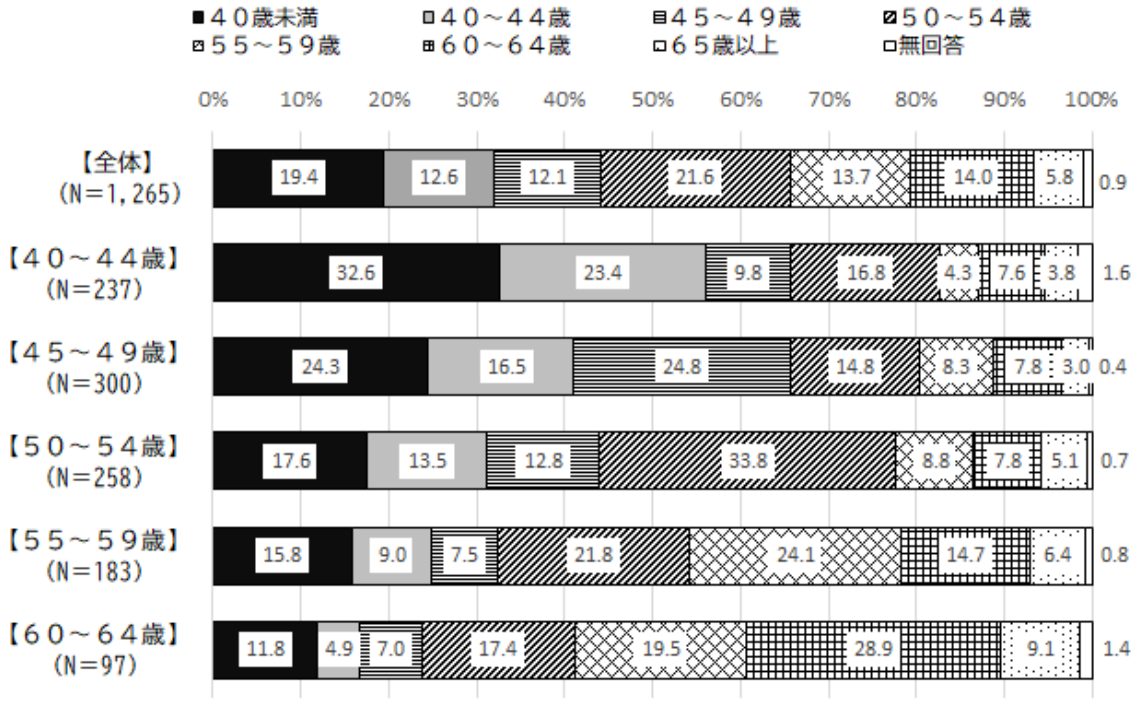
対象：『若年者』

自身が老後に向けての準備（健康づくり、趣味、貯蓄など）を何歳から始めたか、あるいは何歳から始めたらよいと思うか尋ねたところ、「50～54 歳」が 21.6%と最も多く、次いで「40 歳未満」が 19.4%となっている。



【属性別特徴】

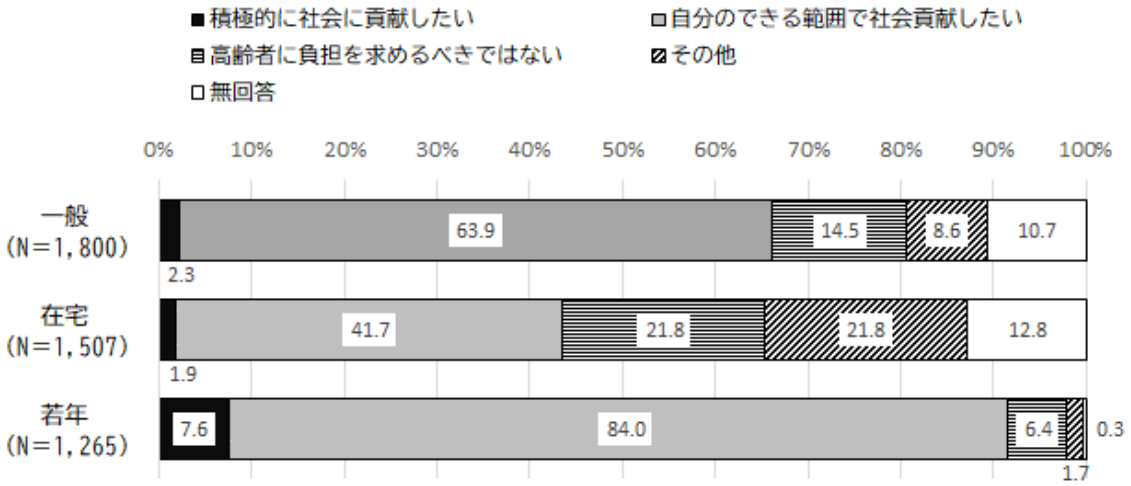
若年者について年齢別にみると、40～44 歳の年齢層では「40 歳未満」の回答が最も多くなっているが、その他の年齢層では、現在の年齢層から始めた（始めたらよいと思う）という割合が多い。



（５）高齢者（高齢者になった時）の社会貢献

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

高齢化が進む中、高齢者（高齢者となった時）としての社会貢献についてどのように考えるか尋ねたところ、「自分のできる範囲で社会貢献したい」が最も多く、一般高齢者で 63.9%、在宅高齢者で 41.7%、若年者で 84.0%となっている。



【令和４年度】
「積極的に社会に貢献したい」
一般：１．７％　在宅：０．８％　若年：７．８％

「自分のできる範囲で社会貢献したい」
一般：６３．８％　在宅：３８．２％　若年：８１．６％

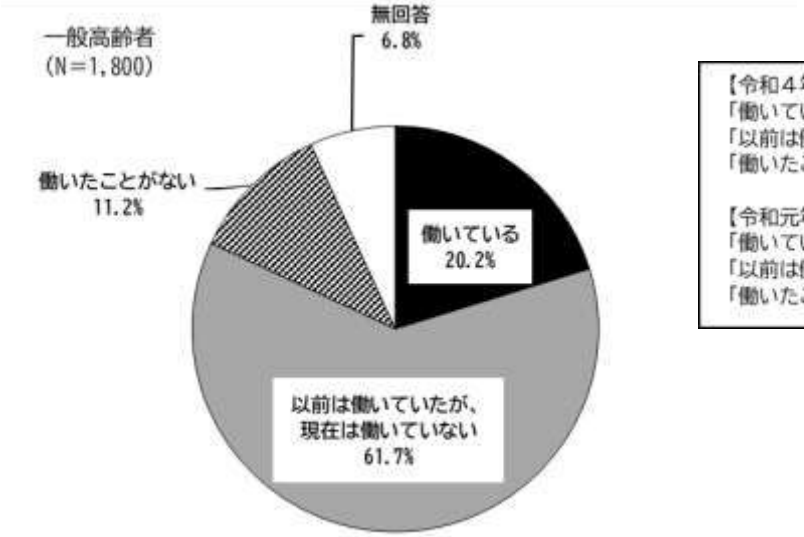
「高齢者に負担を求めるべきではない」
一般：１６．３％　在宅：２３．２％　若年：７．３％

４． 就労

（１）就労状況

対象：『一般高齢者』

就労状況については、「以前は働いていたが、現在は働いていない」が 61.7%と最も多く、次いで「働いている」が 20.2%、「働いたことがない」が 11.2%となっている。



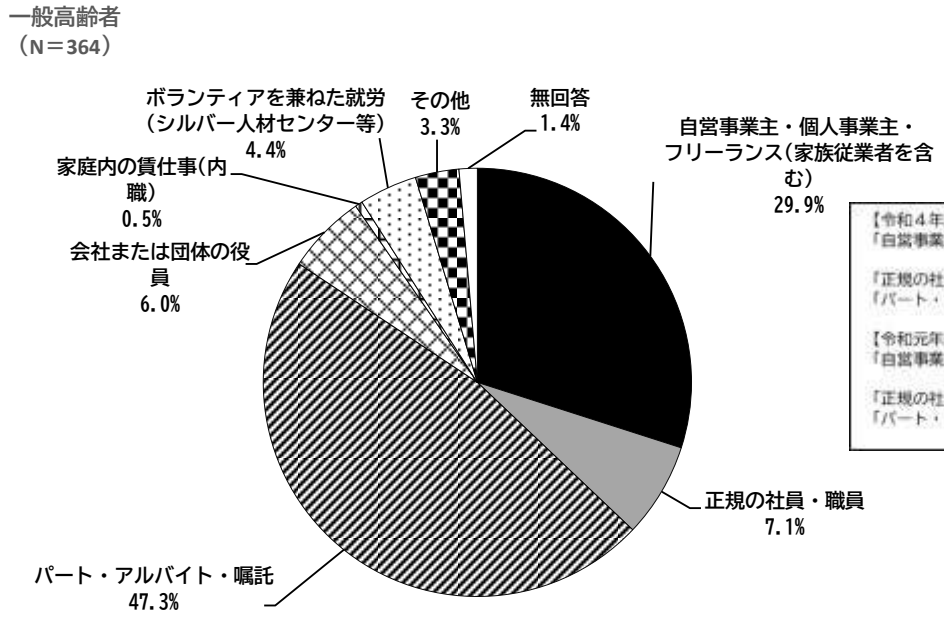
【令和４年度】
「働いている」２０．９％
「以前は働いていたが、現在は働いていない」６４．４％
「働いたことがない」１０．３％

【令和元年度】
「働いている」２９．８％
「以前は働いていたが、現在は働いていない」５７．４％
「働いたことがない」７．７％

（１）-１　就労形態

対象：『一般高齢者』

「働いている」と回答した人に就労形態を尋ねたところ、「パート・アルバイト・嘱託」が 47.3%と最も多く、次いで「自営事業主・個人事業主・フリーランス（家族従業員を含む）」が 29.9%、「正規の社員・職員」が 7.1%となっている。



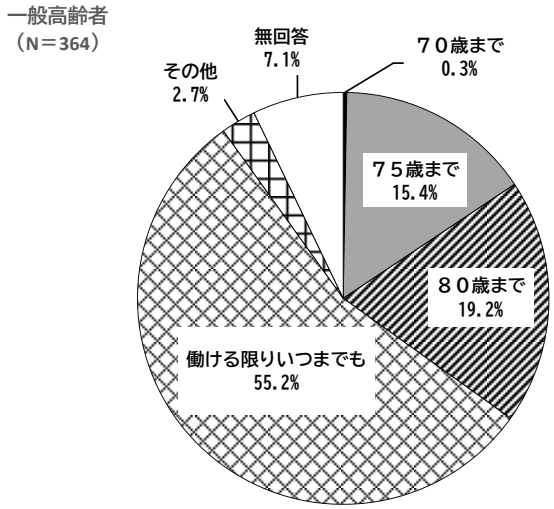
【令和４年度】
「自営事業主・個人事業主・フリーランス（家族従事者を含む）」２６．１％
「正規の社員・職員」　９．３％
「パート・アルバイト・嘱託」　４８．７％

【令和元年度】
「自営事業主・個人事業主・フリーランス（家族従事者を含む）」２１．１％
「正規の社員・職員」　１２．７％
「パート・アルバイト・嘱託」　４８．５％

（１）－２　いくつまで働きたいか

対象：『一般高齢者』

「働いている」と回答した人にいくつまで働きたいか尋ねたところ、「働ける限りいつまでも」が 55.2%と最も多く、次いで「80 歳まで」が 19.2%、「75 歳まで」が 15.4%となっている。

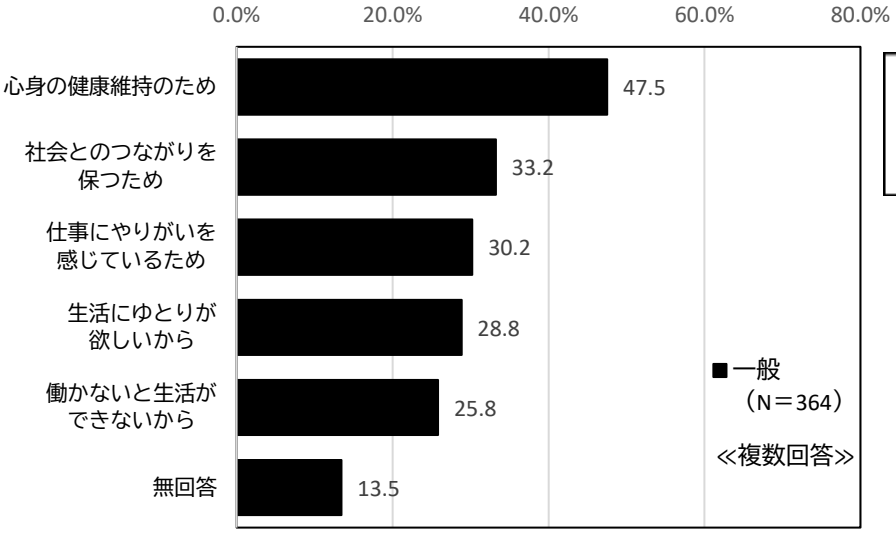


【令和４年度】
「７０歳まで」２.５%
「７５歳まで」１９.３%
「８０歳まで」１３.６%
「働ける限りいつまでも」５４.７%

（１）－３　働く目的

対象：『一般高齢者』

「働いている」と回答した人に働く目的を尋ねたところ、「心身の健康維持のため」が 47.5%と最も多く、次いで「社会とのつながりを保つため」が 33.2%、「仕事にやりがいを感じているため」が 30.2%となっている。

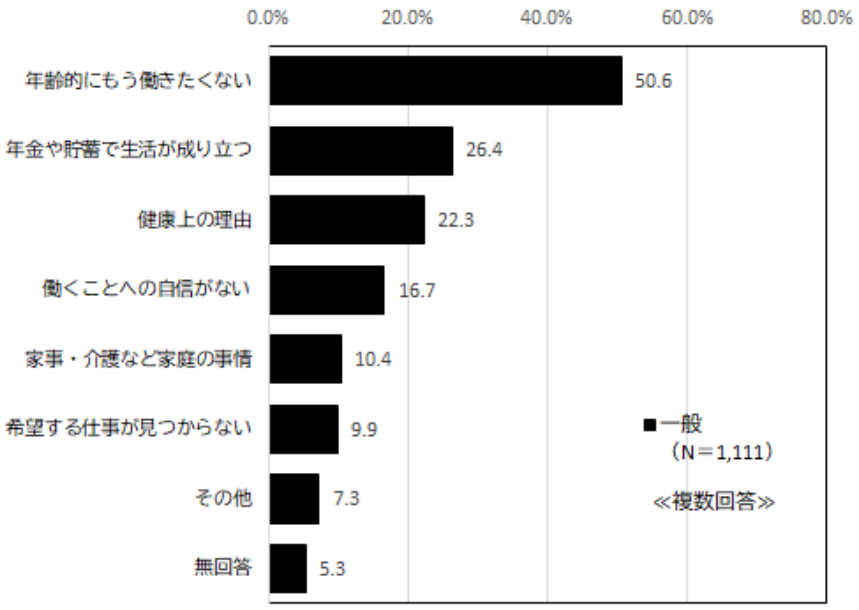


【令和４年度】
「心身の健康維持のため」５４.７%
「社会とのつながりを保つため」３８.２%
「生活にゆとりが欲しいから」３２.６%

（１）－４　働いていない理由

対象：『一般高齢者』

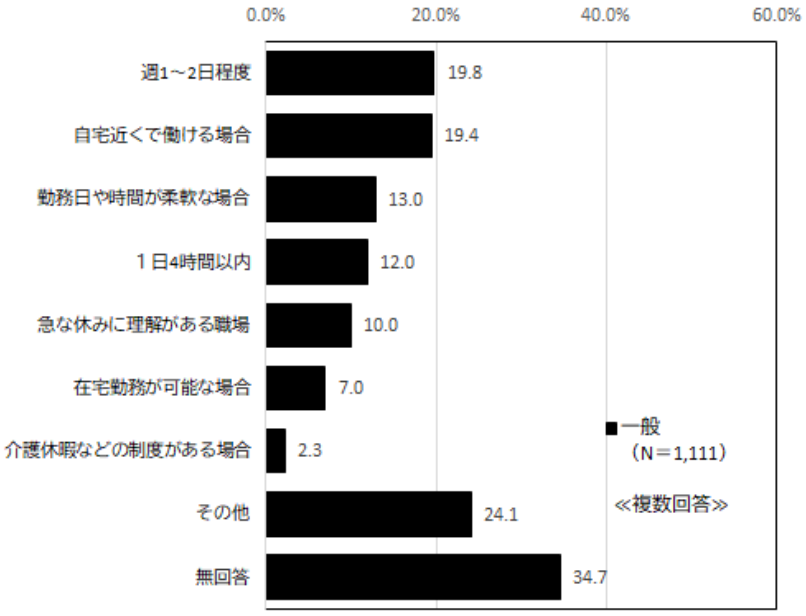
「以前は働いていたが、現在は働いていない」と回答した人に、働いていない理由を尋ねたところ、「年齢的にもう働きたくない」が 50.6%で最も多く、次いで「年金や貯蓄で生活が成り立つ」が 26.4%、「健康上の理由」が 22.3%となっている。



（１）－５　希望する働き方

対象：『一般高齢者』

「以前は働いていたが、現在は働いていない」と回答した人に、どのような働き方であれば働きたいか尋ねたところ、「週に 1～2 日程度」が 19.8%で最も多く、次いで「自宅近くで働ける場合」が 19.4%、「勤務日や時間が柔軟な場合」が 13.0%となっている。

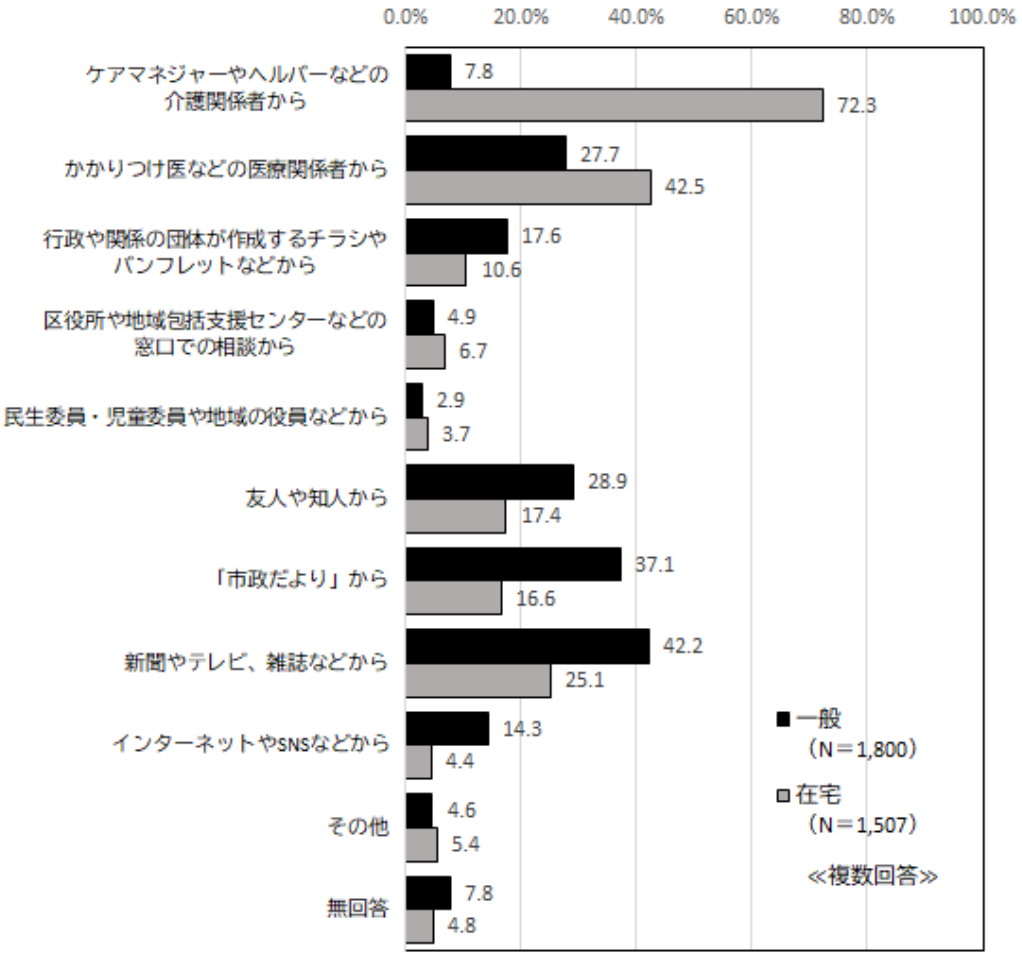


5．　医療や福祉、介護などの情報収集

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

医療や福祉、介護などについての情報を何から得ているか尋ねたところ、一般高齢者では「新聞やテレビ、雑誌などから」が 42.2%と最も多く、次いで「「市政だより」から」が 37.1%、「友人や知人から」が 28.9%となっている。

在宅高齢者では「ケアマネジャーやヘルパーなどの介護関係者から」が 72.3%と最も多く、次いで「かかりつけ医などの医療関係者から」が 42.5%、「新聞やテレビ、雑誌などから」が 25.1%となっている。



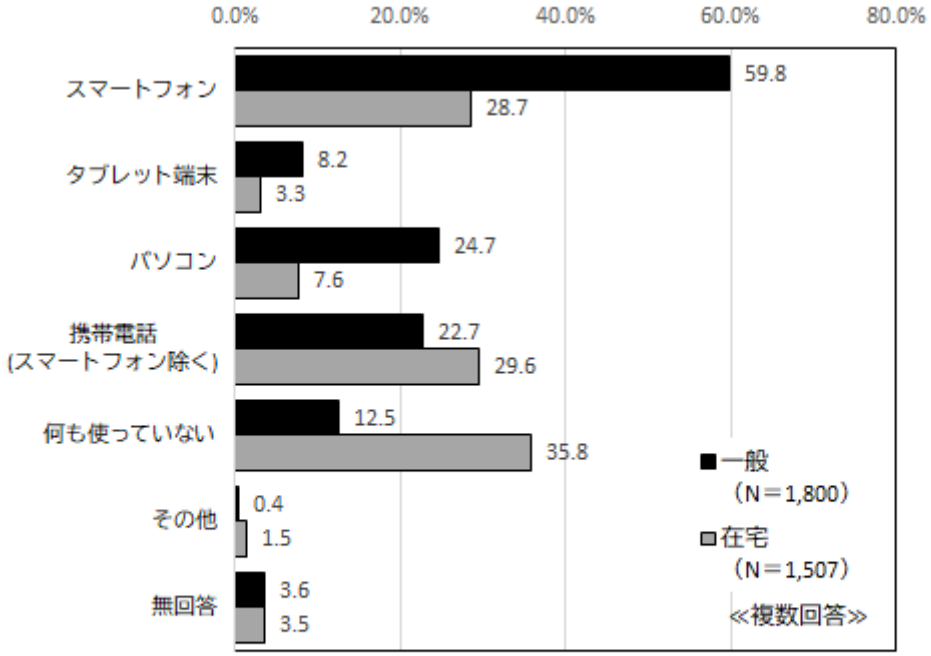
６． デジタル活用

（１）インターネット等の活用状況

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

インターネット等の活用状況について尋ねたところ、一般高齢者は「スマートフォン」が 59.8%と最も多く、次いで「パソコン」が 24.7%、「携帯電話(スマートフォン除く)」が 22.7%となっている。

在宅高齢者では「何も使っていない」が 35.8%と最も多く、次いで「携帯電話(スマートフォン除く)」が 29.6%、「スマートフォン」が 28.7%となっている。



【令和４年度】
「スマートフォン」
一般：４２．１％　　在宅：１５．９％

【属性別特徴】

84 歳以下の年齢層ではスマートフォンを利用している割合が多いが、85 歳以上の年齢層では携帯電話を利用している割合が多くなっている。

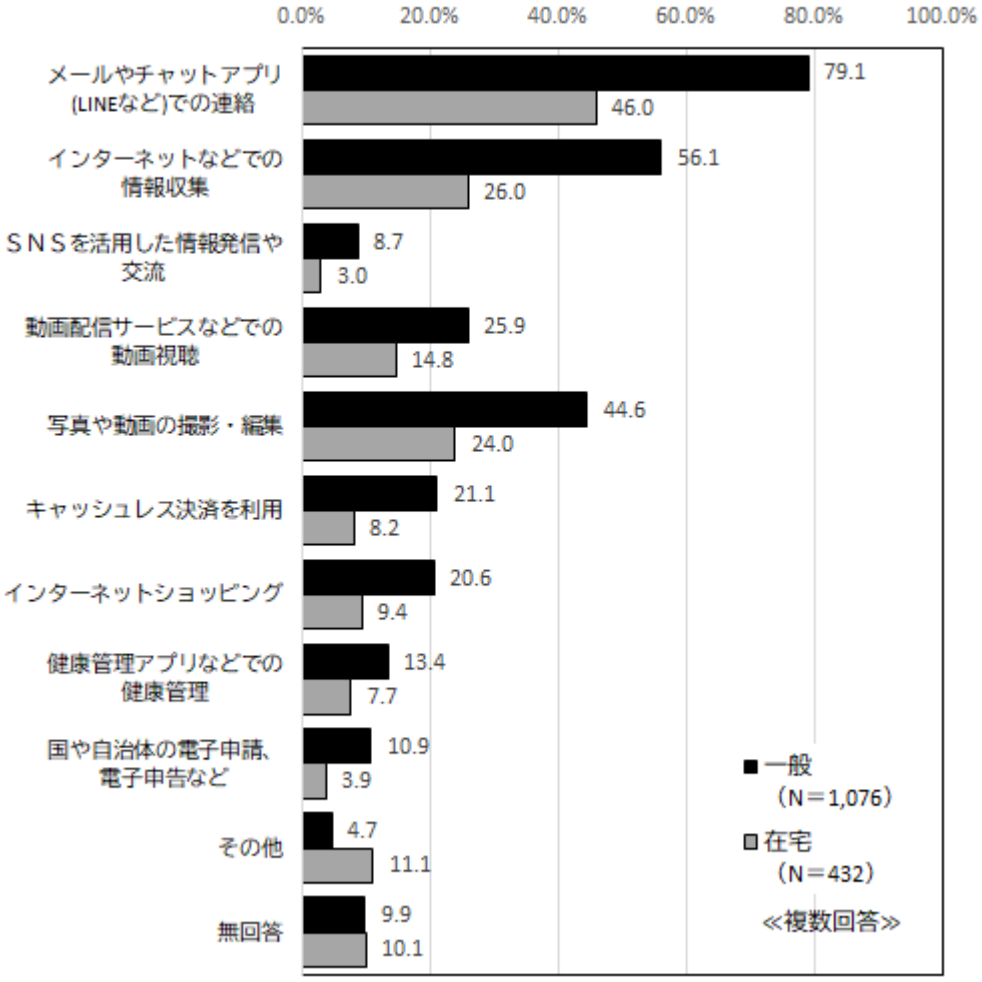
一般高齢者・在宅高齢者（年齢別）

		スマートフォン			携帯電話（スマートフォンを除く）		
		高齢者全体	一般高齢者	在宅高齢者	高齢者全体	一般高齢者	在宅高齢者
全体（高齢者全体　N＝3,307）（一般高齢者　N＝1,800）（在宅高齢者　N＝1,507）		45.6%	59.8%	28.7%	25.8%	22.7%	29.6%
年齢別	６５～６９歳（高齢者全体　N＝23）（一般高齢者　N＝7）（在宅高齢者　N＝16）	60.9%	71.4%	56.3%	21.7%	14.3%	25.0%
	７０～７４歳（高齢者全体　N＝691）（一般高齢者　N＝524）（在宅高齢者　N＝167）	69.5%	75.2%	51.5%	16.5%	15.5%	19.8%
	７５～７９歳（高齢者全体　N＝773）（一般高齢者　N＝552）（在宅高齢者　N＝221）	60.9%	66.8%	46.2%	25.6%	22.6%	33.0%
	８０～８４歳（高齢者全体　N＝594）（一般高齢者　N＝374）（在宅高齢者　N＝220）	45.6%	52.1%	34.5%	32.3%	28.3%	39.1%
	８５～８９歳（高齢者全体　N＝493）（一般高齢者　N＝222）（在宅高齢者　N＝271）	27.0%	35.1%	20.3%	36.7%	32.0%	33.2%
	９０～９４歳（高齢者全体　N＝458）（一般高齢者　N＝83）（在宅高齢者　N＝375）	22.3%	32.5%	20.0%	27.5%	15.7%	30.1%
	９５～９９歳（高齢者全体　N＝181）（一般高齢者　N＝22）（在宅高齢者　N＝159）	12.7%	13.6%	12.6%	23.2%	27.3%	22.6%
	１００歳以上（高齢者全体　N＝64）（一般高齢者　N＝6）（在宅高齢者　N＝58）	7.8%	0.0%	8.6%	12.5%	16.7%	12.1%

（１）－１　利用目的

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

インターネット等の利用目的について尋ねたところ、「メールやチャットアプリ(LINE など)での連絡」が最も多く、一般高齢者で 79.1%、在宅高齢者で 46.0%となっている。次いで「インターネットなどでの情報収集」が一般高齢者で 56.1%、在宅高齢者で 26.0%、「写真や動画の撮影・編集」が一般高齢者で 44.6%、在宅高齢者で 24.0%となっている。

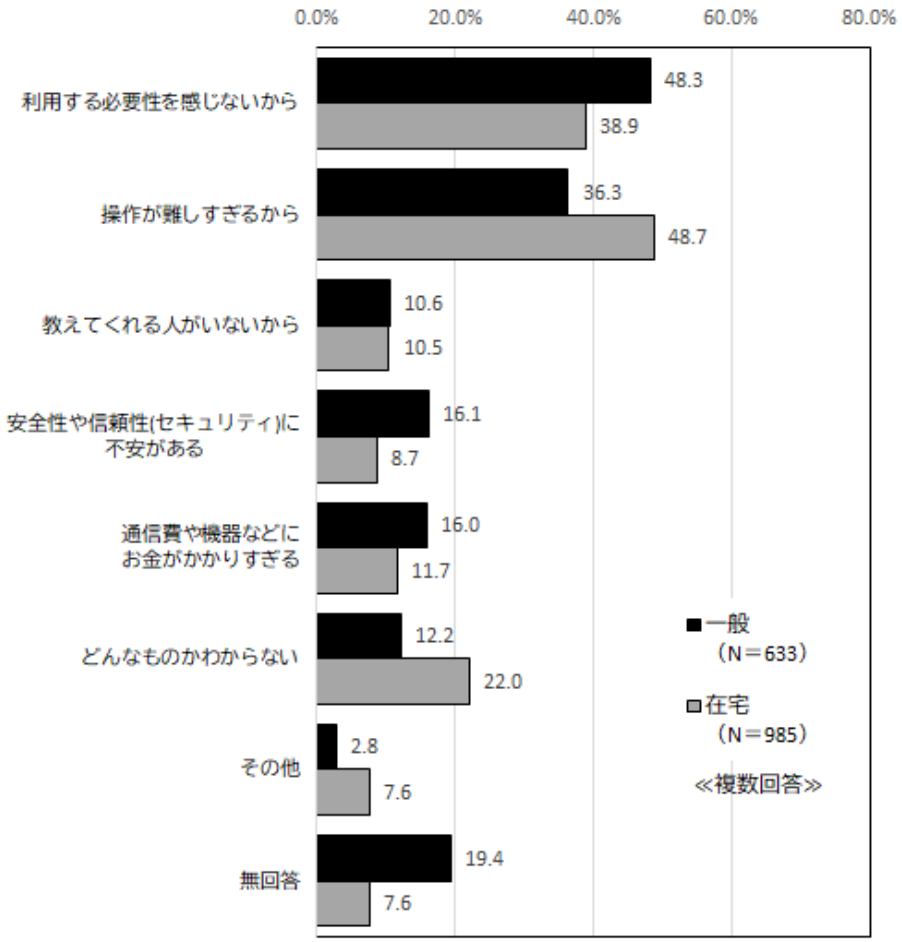


（1）－2　インターネット等を活用していない理由

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

「携帯電話(スマートフォン除く)」、「何も使っていない」と回答した人に、インターネット等を活用していない理由を尋ねたところ、一般高齢者は「利用する必要性を感じないから」が 48.3%と最も多く、次いで「操作が難しすぎるから」が 36.3%、「安全性や信頼性（セキュリティ）に不安がある」が 16.1%となっている。

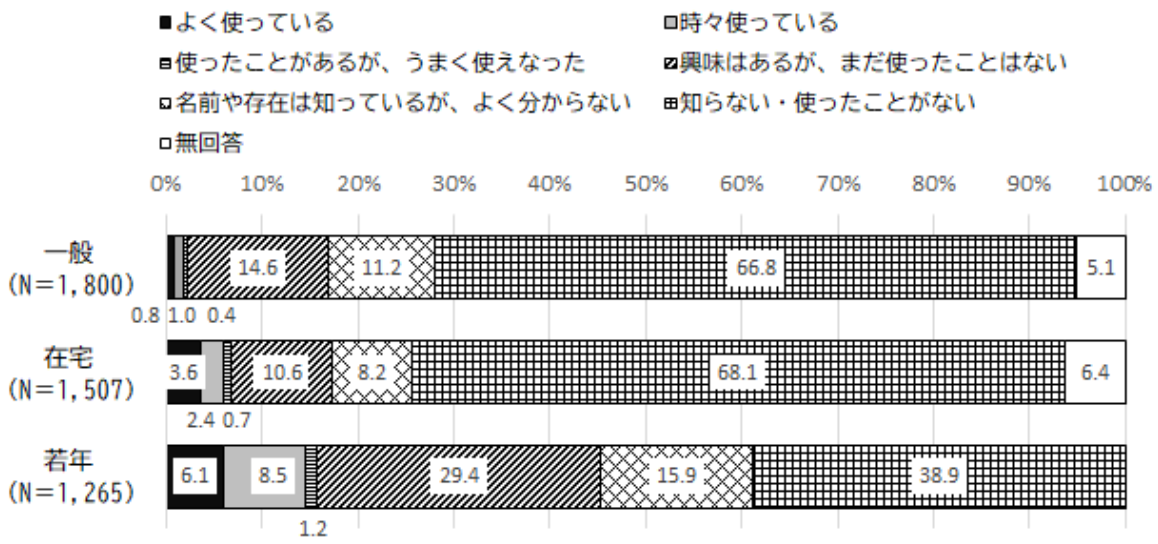
在宅高齢者は「操作が難しすぎるから」が 48.7%と最も多く、次いで「利用する必要性を感じないから」が 38.9%、「どんなものかわからない」が 22.0%となっている。



（２）テクノロジー(生活を助ける新しい機器や仕組み)使用

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

普段の生活や健康のために、テクノロジー(生活を助ける新しい機器や仕組み)を使用したことがあるか尋ねたところ、「知らない・使ったことがない」が最も多く、一般高齢者で 66.8%、在宅高齢者で 68.1%、若年者で 38.9%となっている。次いで「興味はあるが、まだ使ったことはない」が一般高齢者で 14.6%、在宅高齢者で 10.6%、若年者で 29.4%となっている。



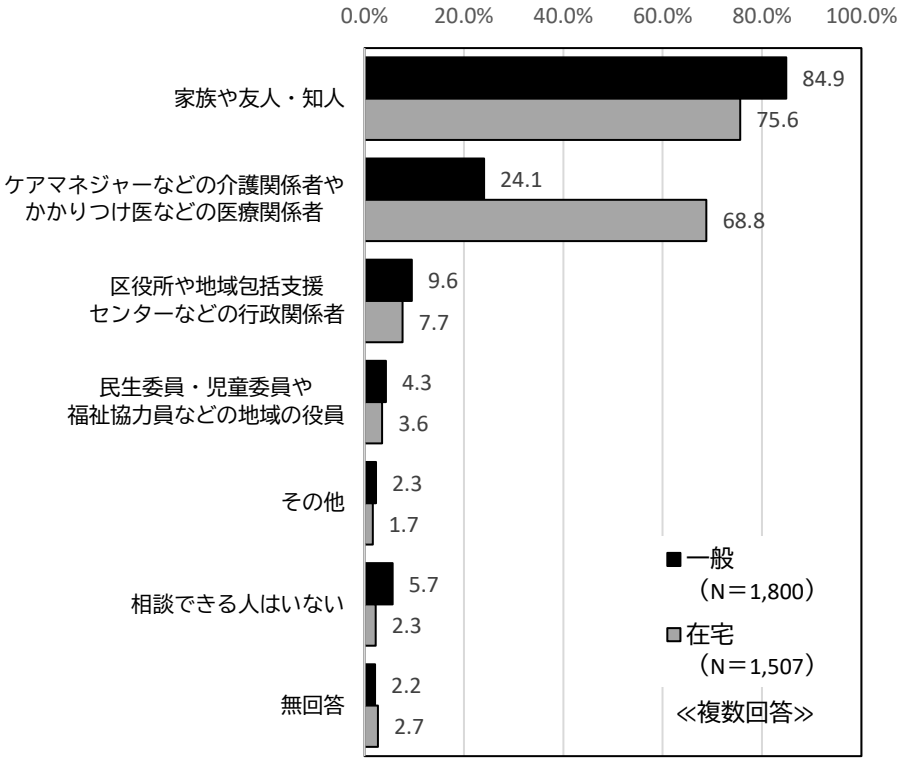
７． 地域との関わり・支援の状況

（１）相談できる人

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

介護や病気などで困ったときに相談できる人について尋ねたところ、「家族や友人・知人」が最も多く、一般高齢者で 84.9%、在宅高齢者で 75.6%となっている。

また在宅高齢者では、「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」が 68.8%と一般高齢者の 24.1%に比べて大幅に多くなっている。



【令和４年度】
一般：８７．４％「家族や友人・知人」
　　２３．０％「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」

在宅：７５．０％「家族や友人・知人」
　　６７．２％「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」

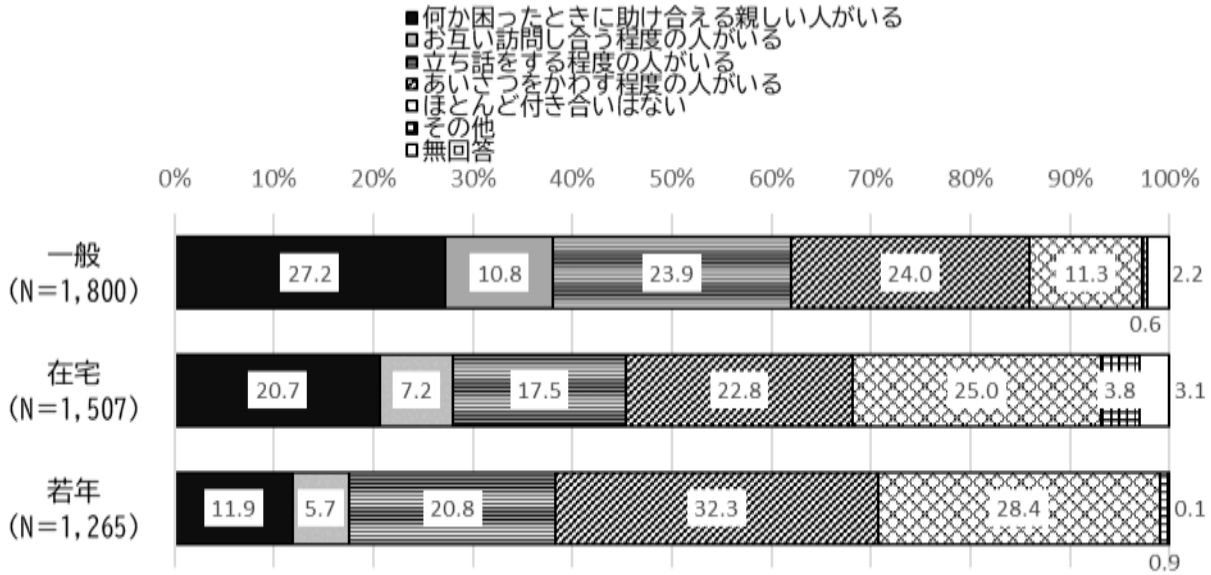
【令和元年度】
一般：８７．０％「家族や友人・知人」
　　２６．７％「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」

在宅：７３．０％「家族や友人・知人」
　　６２．１％「ケアマネジャーなどの介護関係者やかかりつけ医などの医療関係者」

（２）近所づきあい

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

近所で親しく付き合っている人がいるか尋ねたところ、一般高齢者では「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」が 27.2%と最も多く、在宅高齢者では「ほとんど付き合いはない」が 25.0%と最も多く、若年者では「あいさつをかわす程度の人がいる」が 32.3%と最も多くなっている。

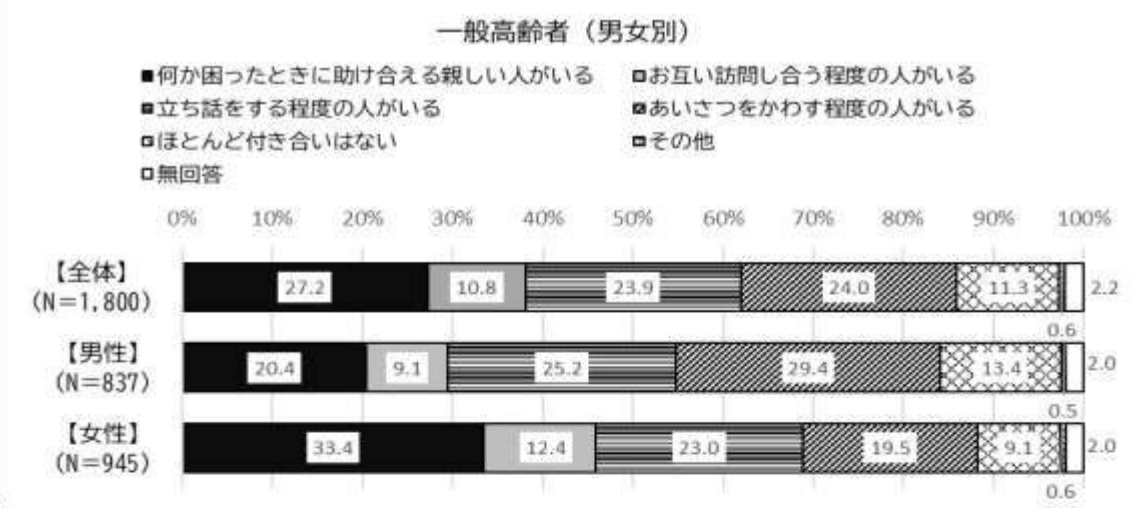


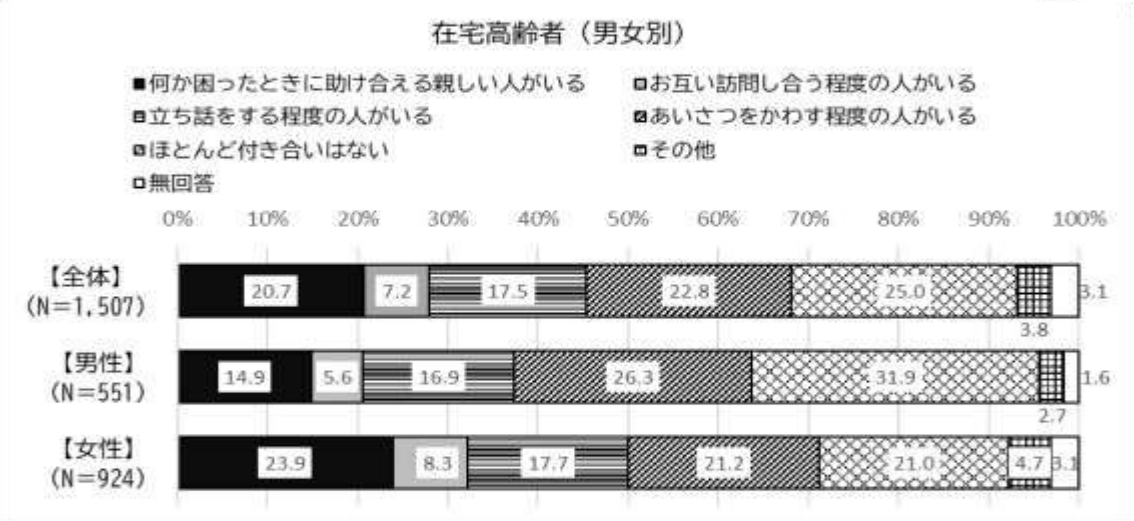
【令和４年度】
「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」
一般：２２．４％　在宅：１７．３％　若年：１１．６％
「お互い訪問し合う程度の人がいる」
一般：１０．７％　在宅：７．６％　若年：５．１％
「立ち話をする程度の人がいる」
一般：２３．６％　在宅：１４．８％　若年：２２．１％
「あいさつをかわす程度の人がいる」
一般：１９．５％　在宅：２０．５％　若年：３３．４％
「ほとんど付き合いはない」
一般：１２．５％　在宅：２３．７％　若年：２６．５％

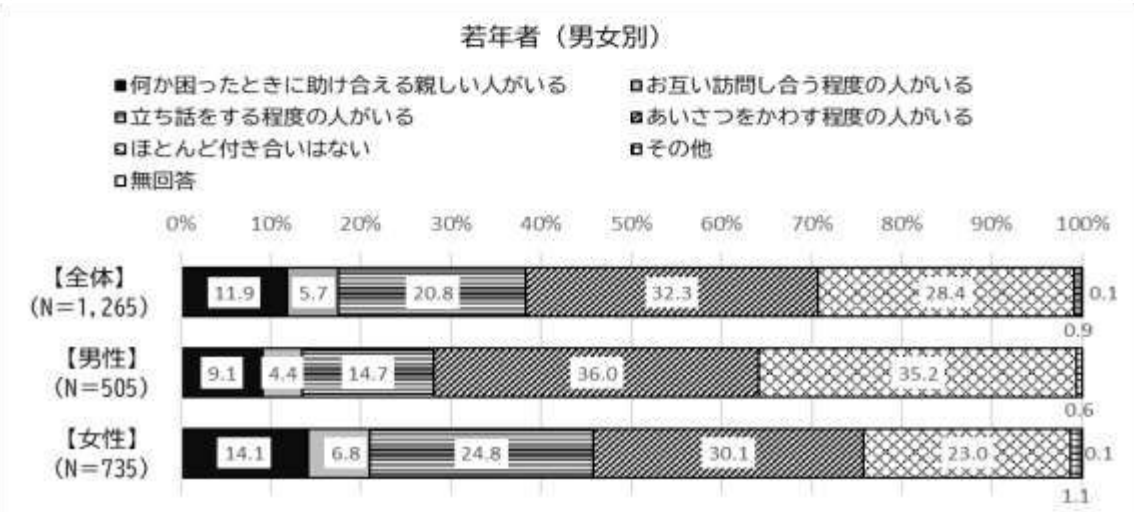
【令和元年度】
「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」
一般：３０．３％　在宅：２５．１％　若年：１３．８％
「お互い訪問し合う程度の人がいる」
一般：１０．３％　在宅：１０．８％　若年：８．３％
「立ち話をする程度の人がいる」
一般：３０．１％　在宅：１９．８％　若年：２６．３％
「あいさつをかわす程度の人がいる」
一般：１８．０％　在宅：１９．０％　若年：３２．９％
「ほとんど付き合いはない」
一般：　８．７％　在宅：１６．１％　若年：１７．５％

【属性別特徴】

男女別にみると、一般高齢者、在宅高齢者、若年者のいずれにおいても「何か困ったときに助け合える親しい人がいる」の割合は女性の方が男性よりも多くなっている。







８． 終活

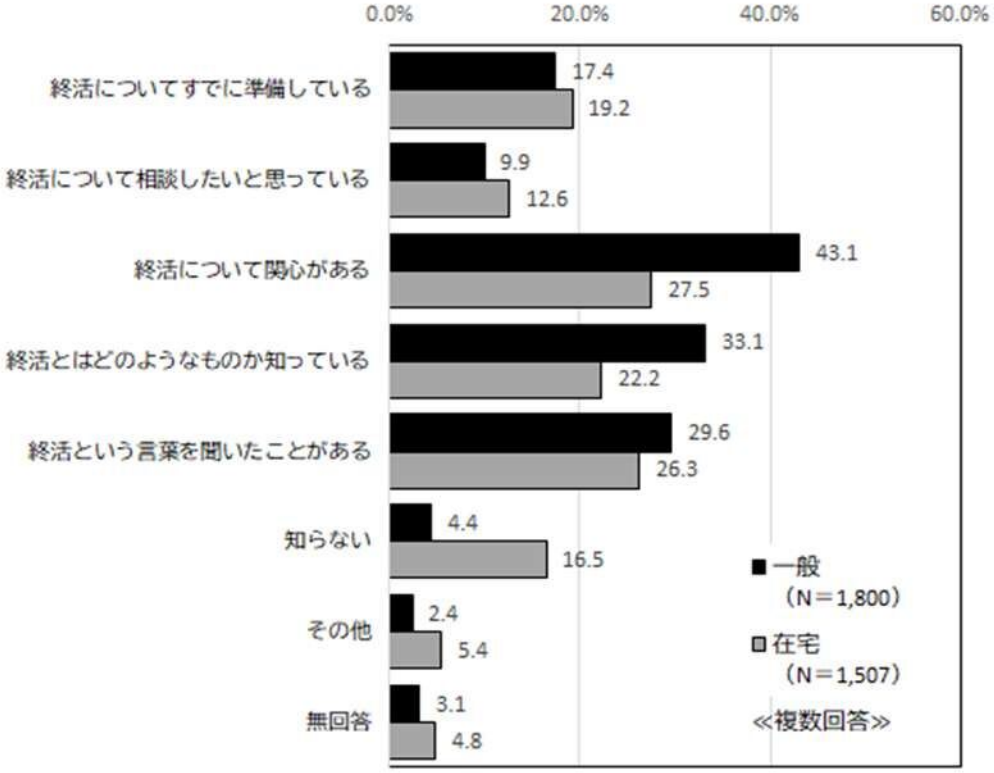
（１）終活について

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』

終活について尋ねたところ、一般高齢者では「終活について関心がある」が 43.1%と最も多く、次いで「終活とはどのようなものか知っている」が 33.1%、「終活という言葉を聞いたことがある」が 29.6%となっている。

在宅高齢者では「終活について関心がある」27.5%と最も多く、次いで「終活という言葉を聞いたことがある」が 26.3%、「終活とはどのようなものか知っている」が 22.2%となっている。

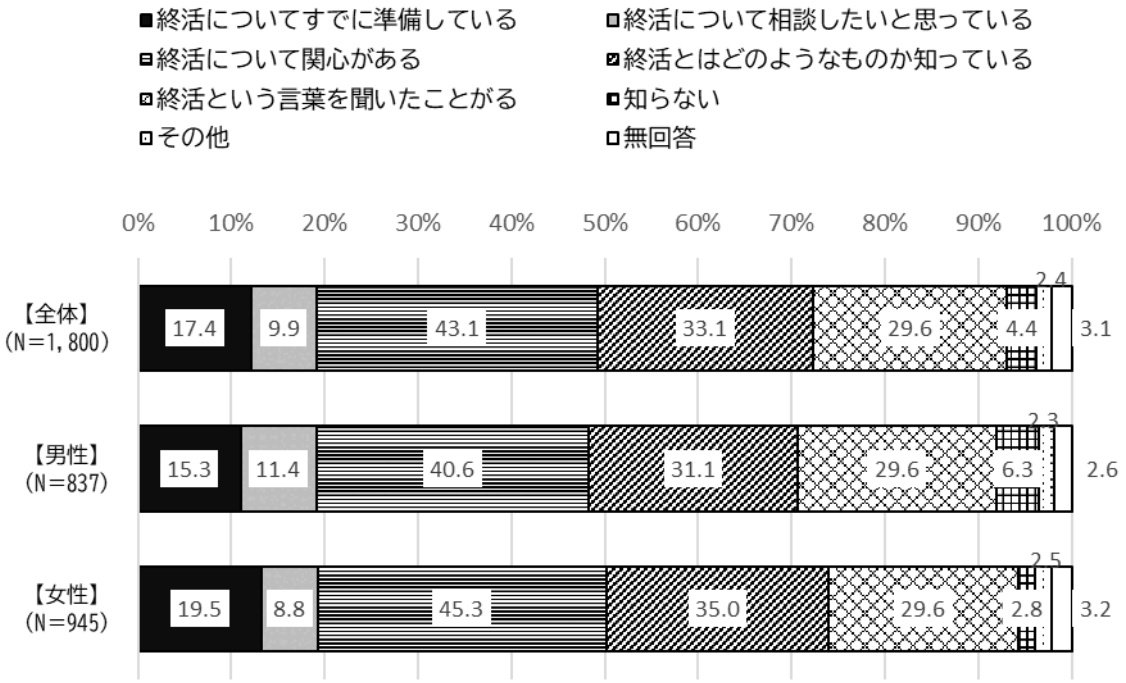
	一般高齢者	在宅高齢者
1位	終活について関心がある（43.1%）	終活について関心がある（27.5%）
2位	終活とはどのようなものか知っている（33.1%）	終活という言葉を聞いたことがある（26.3%）
3位	終活という言葉を聞いたことがある（29.6%）	終活とはどのようなものか知っている（22.2%）



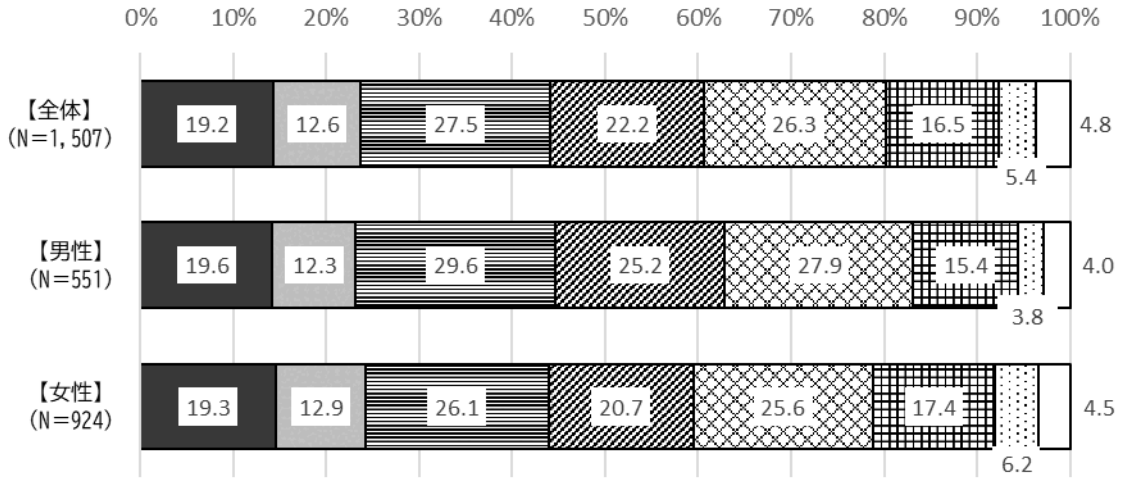
【令和４年度】
一般：４２．９％「終活について関心がある」
３９．６％「終活とはどのようなものか知っている」
２９．３％「終活という言葉を聞いたことがある」

在宅：２７．３％「終活とはどのようなものか知っている」
２６．４％「終活について関心がある」
２６．３％「終活という言葉を聞いたことがある」

一般高齢者（性別）



在宅高齢者（性別）



（２）終活の準備にあたっての不安

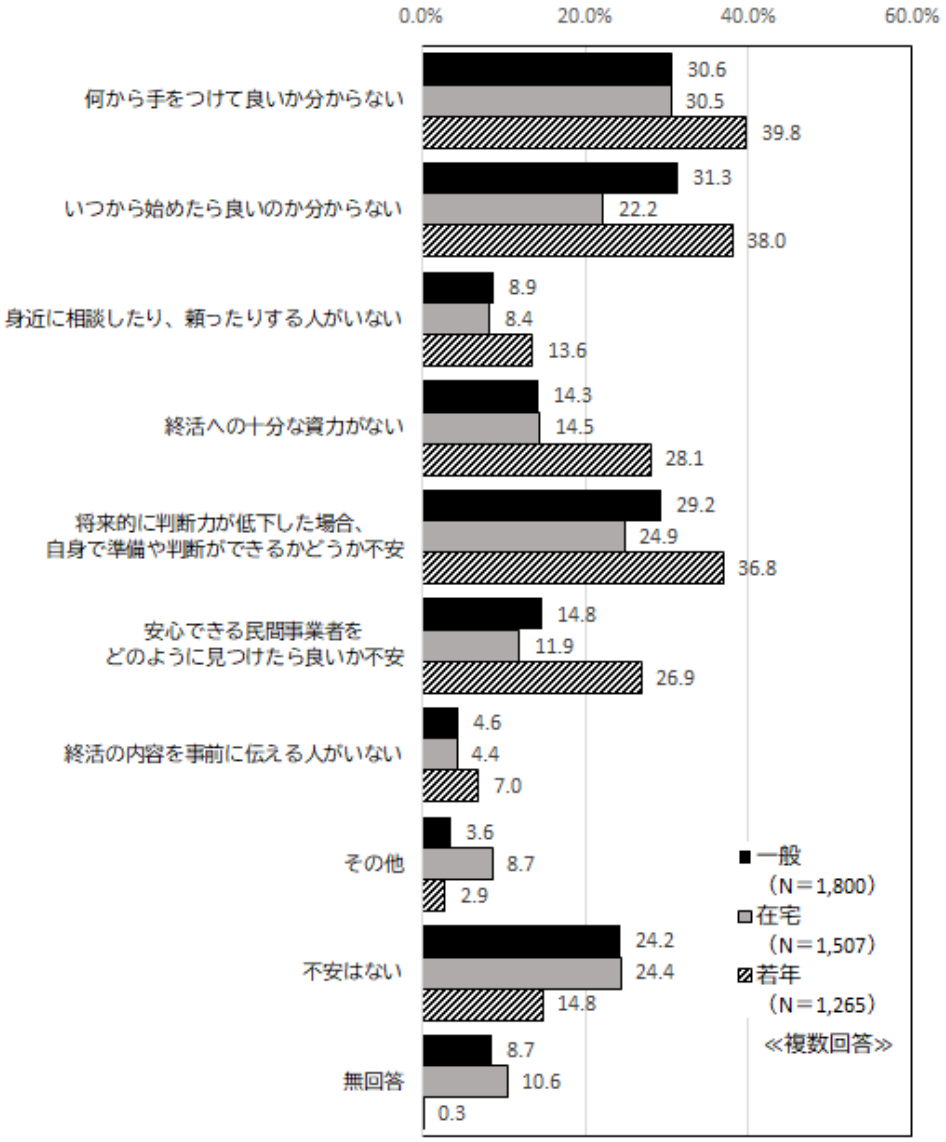
対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

終活の準備にあたって、不安に思っていることを尋ねたところ、一般高齢者では「いつから始めたら良いのか分からない」が 31.3%で最も多く、次いで「何から手をつけて良いか分からない」が 30.6%、「将来的に判断力が低下した場合、自身で準備や判断ができるかどうか不安」が 29.2%となっている。

在宅高齢者では「何から手をつけて良いか分からない」が 30.5%で最も多く、次いで「将来的に判断力が低下した場合、自身で準備や判断ができるかどうか不安」が 24.9%、「不安はない」は 24.4%となっている。

若年者では「何から手をつけて良いか分からない」が 39.8%で最も多く、次いで「いつから始めたら良いのか分からない」が 38.0%、「将来的に判断力が低下した場合、自身で準備や判断ができるかどうか不安」が 36.8%となっている。

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	いつから始めたら良いのか分からない（31.3%）	何から手をつけて良いか分からない（30.5%）	何から手をつけて良いか分からない（39.8%）
2位	何から手をつけて良いか分からない（30.6%）	将来的に判断力が低下した場合、自身で準備や判断ができるかどうか不安（24.9%）	いつから始めたら良いのか分からない（38.0%）
3位	将来的に判断力が低下した場合、自身で準備や判断ができるかどうか不安（29.2%）	不安はない（24.4%）	将来的に判断力が低下した場合、自身で準備や判断ができるかどうか不安（36.8%）

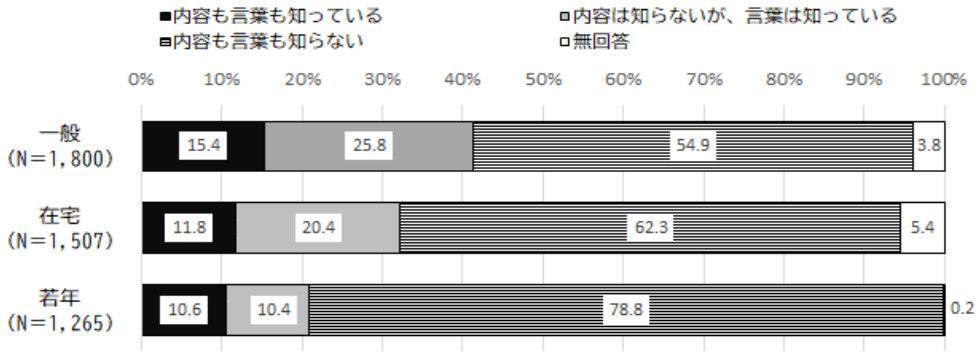

0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
何から手をつけて良いか分からない
30.6
30.5
39.8
いつから始めたら良いのか分からない
31.3
22.2
38.0
身近に相談したり、頼ったりする人がいない
8.9
8.4
13.6
終活への十分な資力がない
14.3
14.5
28.1
将来的に判断力が低下した場合、
自身で準備や判断ができるかどうか不安
29.2
24.9
36.8
安心できる民間事業者を
どのように見つけたら良いか不安
14.8
11.9
26.9
終活の内容を事前に伝える人がいない
4.6
4.4
7.0
その他
3.6
8.7
2.9
不安はない
24.2
24.4
14.8
無回答
8.7
10.6
0.3
一般
（N＝1,800）
在宅
（N＝1,507）
若年
（N＝1,265）
≪複数回答≫

９． 認知症

（１）認知症施策推進基本計画(令和 6 年 12 月閣議決定)の「新しい認知症観」の認知度

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

「新しい認知症観」を知っているか尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者、若年者いずれも「内容も言葉も知らない」が最も多く、一般高齢者で 54.9%、在宅高齢者で 62.3%、若年者で 78.8%となっている。

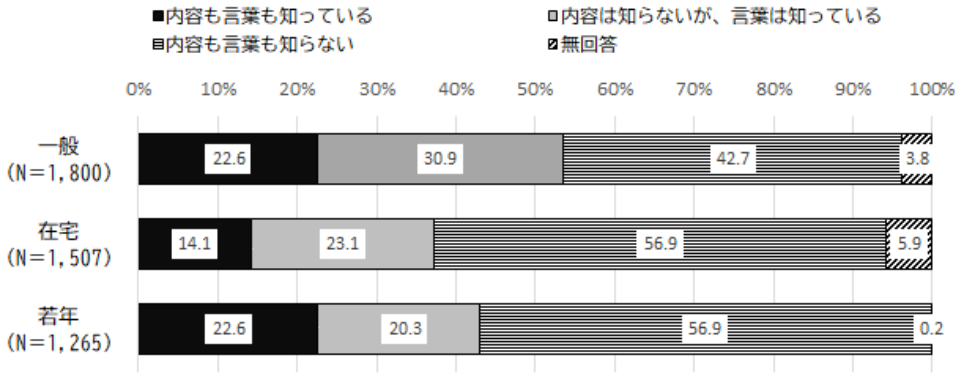


☆「新しい認知症観」とは☆
　認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になってからも、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持って自分らしく暮らし続けることができるという考え方。

（２）「ＭＣＩ(軽度認知障害)」の認知度

対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

「ＭＣＩ(軽度認知障害)」を知っているか尋ねたところ、一般高齢者、在宅高齢者、若年者いずれも「内容も言葉も知らない」が最も多く、一般高齢者で 42.7%、在宅高齢者及び若年者で 56.9%となっている。



☆「ＭＣＩ（軽度認知障害)」とは☆
　ご本人や家族に認知機能低下の自覚があるものの日常生活は問題なく送ることができる状態（健常な状態と認知症の中間の状態)。

（３）認知症と聞いて最初に思うこと

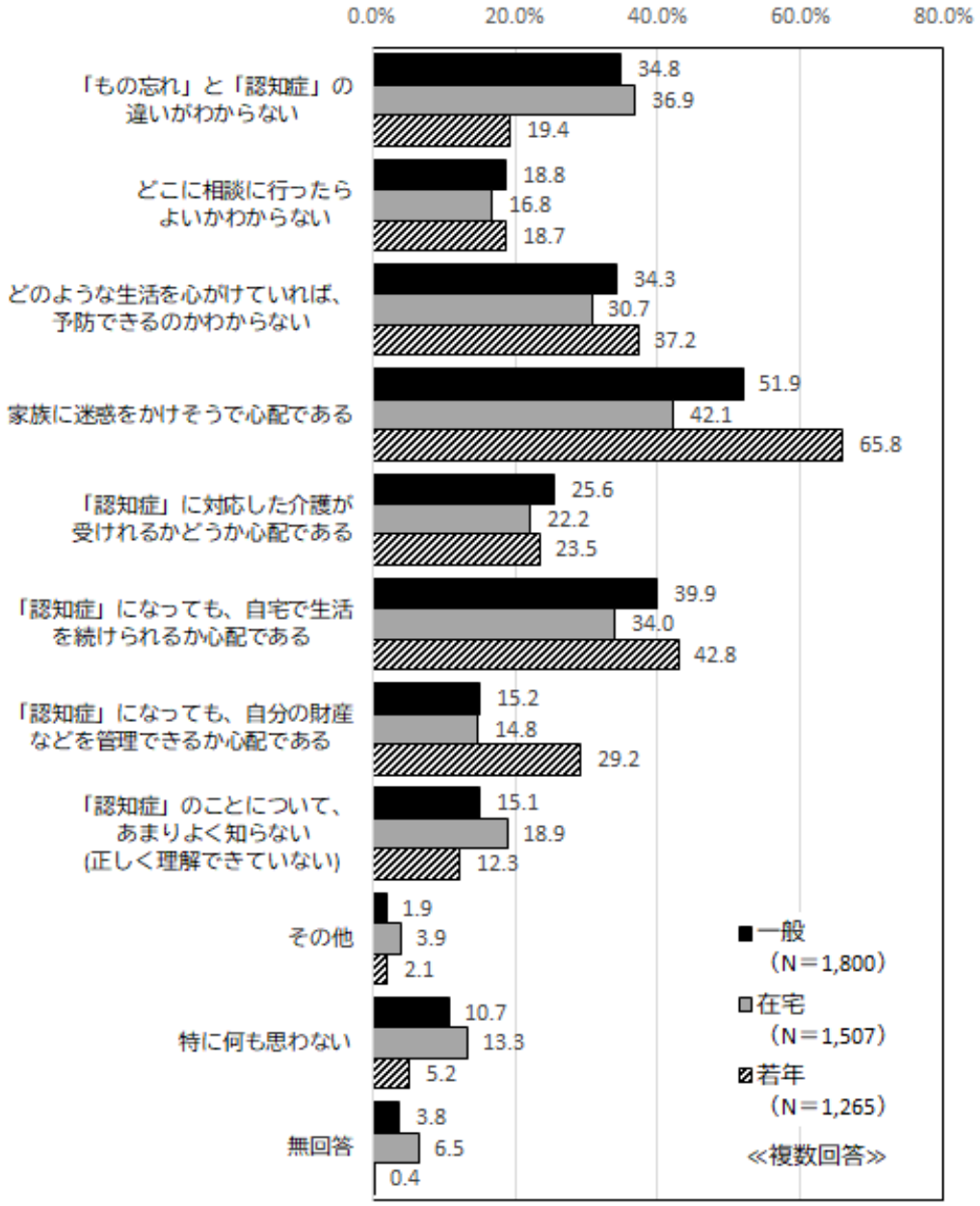
対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

認知症と聞いて、最初に思うことはどのようなことか尋ねたところ、「家族に迷惑をかけそうで心配である」が最も多く、一般高齢者で 51.9%、在宅高齢者で 42.1%、若年者で 65.8%となっている。次いで一般高齢者、若年者は「『認知症』になっても、自宅で生活を続けられるか心配である」、在宅高齢者は「『もの忘れ』と『認知症』の違いがわからない」の割合が多くなっている。

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	家族に迷惑をかけそうで心配である（51.9%）	家族に迷惑をかけそうで心配である（42.1%）	家族に迷惑をかけそうで心配である（65.8%）
2位	「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか心配である（39.9%）	「もの忘れ」と「認知症」の違いがわからない（36.9%）	「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか心配である（42.8%）
3位	「もの忘れ」と「認知症」の違いがわからない（34.8%）	「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか心配である（34.0%）	どのような生活を心がけていれば、予防できるのかわからない（37.2%）

【令和４年度】

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	家族に迷惑をかけそうで心配である（53.9%）	家族に迷惑をかけそうで心配である（45.9%）	家族に迷惑をかけそうで心配である（70.3%）
2位	「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか心配である（42.2%）	「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか心配である（35.0%）	「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか心配である（43.9%）
3位	どのような生活を心がけていれば、予防できるのかわからない（31.6%）	「もの忘れ」と「認知症」の違いがわからない（34.1%）	どのような生活を心がけていれば、予防できるのかわからない（38.2%）


0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
「もの忘れ」と「認知症」の違いがわからない
34.8
36.9
19.4
どこに相談に行ったらよいかわからない
18.8
16.8
18.7
どのような生活を心がけていれば、予防できるのかわからない
34.3
30.7
37.2
家族に迷惑をかけそうで心配である
51.9
42.1
65.8
「認知症」に対応した介護が受けれるかどうか心配である
25.6
22.2
23.5
「認知症」になっても、自宅で生活を続けられるか心配である
39.9
34.0
42.8
「認知症」になっても、自分の財産などを管理できるか心配である
15.2
14.8
29.2
「認知症」のことについて、あまりよく知らない(正しく理解できていない)
15.1
18.9
12.3
その他
1.9
3.9
2.1
特に何も思わない
10.7
13.3
5.2
無回答
3.8
6.5
0.4
一般（N＝1,800）
在宅（N＝1,507）
若年（N＝1,265）
≪複数回答≫

（４）家族が認知症になった場合、または認知症のご家族がいる方の心配だと思う(感じる)こと

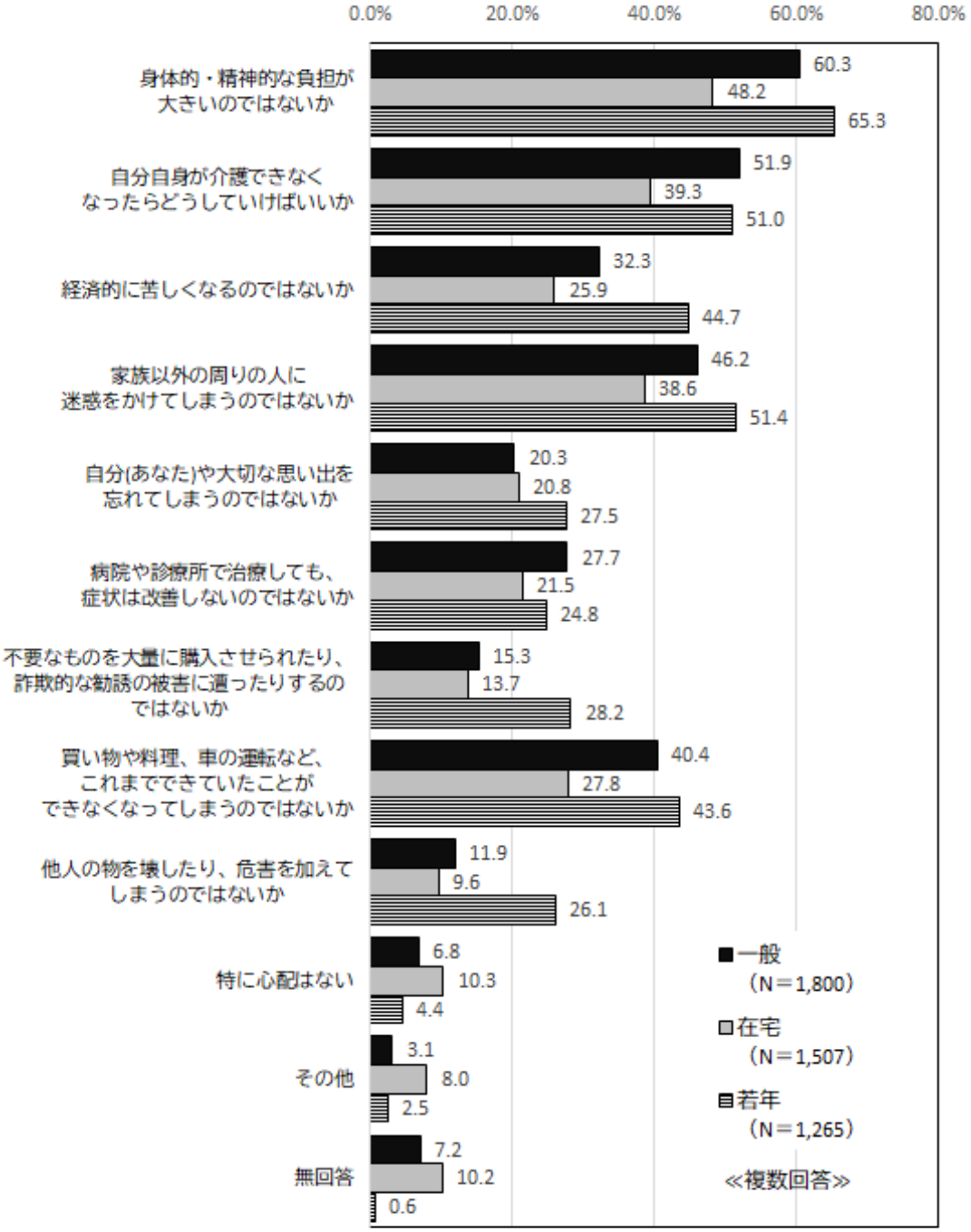
対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

家族が認知症になった場合や、現在、認知症の家族がいる方はどのようなことを心配だと思う(感じる)か尋ねたところ、「身体的・精神的な負担が大きいのではないか」が最も多く、一般高齢者で 60.3%、在宅高齢者で 48.2%、若年者で 65.3%となっている。次いで一般高齢者、在宅高齢者は「自分自身が介護できなくなったらどうしていけばいいか」、若年者では「家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか」の割合が多くなっている。

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	身体的・精神的な負担が大きいのではないか（60.3%）	身体的・精神的な負担が大きいのではないか（48.2%）	身体的・精神的な負担が大きいのではないか（65.3%）
2位	自分自身が介護できなくなったらどうしていけばいいか（51.9%）	自分自身が介護できなくなったらどうしていけばいいか（39.3%）	家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか（51.4%）
3位	家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか（46.2%）	家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか（38.6%）	自分自身が介護できなくなったらどうしていけばいいか（51.0%）

【令和４年度】

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	身体的・精神的な負担が大きいのではないか（60.7%）	身体的・精神的な負担が大きいのではないか（49.3%）	身体的・精神的な負担が大きいのではないか（68.6%）
2位	自分自身が介護できなくなったらどうしていけばいいか（53.2%）	家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか（43.5%）	家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか（58.1%）
3位	家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか（52.8%）	自分自身が介護できなくなったらどうしていけばいいか（41.7%）	自分自身が介護できなくなったらどうしていけばいいか（56.5%）


0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
身体的・精神的な負担が大きいのではないか
60.3
48.2
65.3
自分自身が介護できなくなったらどうしていけばいいか
51.9
39.3
51.0
経済的に苦しくなるのではないか
32.3
25.9
44.7
家族以外の周りの人に迷惑をかけてしまうのではないか
46.2
38.6
51.4
自分(あなた)や大切な思い出を忘れてしまうのではないか
20.3
20.8
27.5
病院や診療所で治療しても、症状は改善しないのではないか
27.7
21.5
24.8
不要なものを大量に購入させられたり、詐欺的な勧誘の被害に遭ったりするのではないか
15.3
13.7
28.2
買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなってしまうのではないか
40.4
27.8
43.6
他人の物を壊したり、危害を加えてしまうのではないか
11.9
9.6
26.1
特に心配はない
6.8
10.3
4.4
その他
3.1
8.0
2.5
無回答
7.2
10.2
0.6
一般（N＝1,800）
在宅（N＝1,507）
若年（N＝1,265）
≪複数回答≫

（５）認知症に関して市が力を入れるべき取組

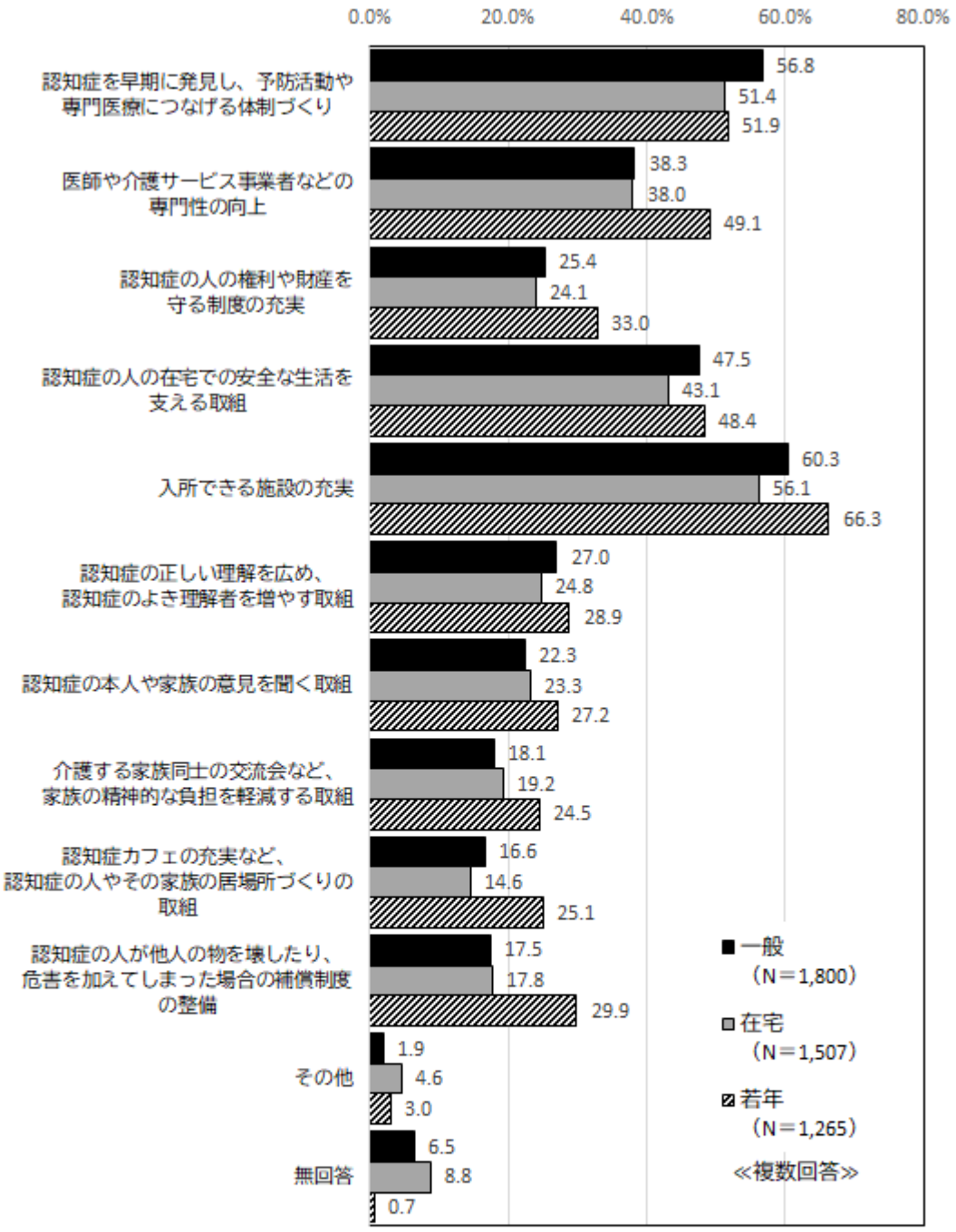
対象：『一般高齢者』『在宅高齢者』『若年者』

認知症に関して市が力を入れていくべき取組については、一般高齢者、在宅高齢者、若年者いずれも「入所できる施設の充実」が最も多く、一般高齢者で 60.3%、在宅高齢者で 56.1%、若年者で 66.3%となっている。次いで「認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり」が、一般高齢者で 56.8%、在宅高齢者で 51.4%、若年者で 51.9%となっている。

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	入所できる施設の充実（60.3%）	入所できる施設の充実（56.1%）	入所できる施設の充実（66.3%）
2位	認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり（56.8%）	認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり（51.4%）	認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり（51.9%）
3位	認知症の人の在宅での安全な生活を支える取組（47.5%）	認知症の人の在宅での安全な生活を支える取組（43.1%）	医療や介護サービス事業者などの専門性の向上（49.1%）

【令和４年度】

	一般高齢者	在宅高齢者	若年者
1位	入所できる施設の充実（63.2%）	入所できる施設の充実（56.3%）	入所できる施設の充実（69.2%）
2位	認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり（62.4%）	認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり（54.9%）	認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり（57.4%）
3位	認知症の人の在宅での安全な生活を支える取組（51.4%）	認知症の人の在宅での安全な生活を支える取組（42.7%）	医療や介護サービス事業者などの専門性の向上（52.0%）


0.0%
20.0%
40.0%
60.0%
80.0%
認知症を早期に発見し、予防活動や専門医療につなげる体制づくり
56.8
51.4
51.9
医師や介護サービス事業者などの専門性の向上
38.3
38.0
49.1
認知症の人の権利や財産を守る制度の充実
25.4
24.1
33.0
認知症の人の在宅での安全な生活を支える取組
47.5
43.1
48.4
入所できる施設の充実
60.3
56.1
66.3
認知症の正しい理解を広め、認知症のよき理解者を増やす取組
27.0
24.8
28.9
認知症の本人や家族の意見を聞く取組
22.3
23.3
27.2
介護する家族同士の交流会など、家族の精神的な負担を軽減する取組
18.1
19.2
24.5
認知症カフェの充実など、認知症の人やその家族の居場所づくりの取組
16.6
14.6
25.1
認知症の人が他人の物を壊したり、危害を加えてしまった場合の補償制度の整備
17.5
17.8
29.9
その他
1.9
4.6
3.0
無回答
6.5
8.8
0.7
一般（N＝1,800）
在宅（N＝1,507）
若年（N＝1,265）
≪複数回答≫